

子供たちは今

—— 仙台市の子供の生活意識を探る ——

仙台市教育センター



人の世に三智がある

仙台市教育センター

所長 大宮 貞昭

文豪 島崎藤村の文章に「人の世に三智がある。学んで得る智，人と交わって得る智，自らの体験によって得る智がそれである」とある。この中の「学」という元の次は「學」で，この字をよく見ると，「メ」の部分がある。これは，人と人とのかかわりやふれあいを表している。また，「臼」は両手で，「一」は家を意味している。この漢字の意味から考えると，前者二つの智は，数人が集まっての話し合いや心のふれあいが，生活をしたり学問をしたりするうえでいかに大切であることを示している。たった独りでの生活や学問は，いくら努力して向上を求めても限度があるということかもしれない。

一方，「体験」について考えてみると，今日の家庭は少子化現象で，友達と遊ぶ，何か道具を作って遊ぶ，何か育ててみるといった体験がたいへん少なくなっている。何かを経験することによって身に付くはずの能力は期待できそうもない。

いま，新しい学力観は，まさに教育研究のハイライトである。わたしたちは，子供たちの「学ぼうとする力」を積極的に育てなければならない。ここに，藤村のいう「三つの智」は，心身ともに豊かな子供たちを育成するうえで，たいへん重要なことになる。

平成5年4月，仙台市教育センターがオープンしたのに伴い，他の政令指定都市と共に共同研究を進めることになった。他の政令指定都市は，2年も前に子供たちの意識調査を実施した。仙台市でも同じ内容で，「子供たちは 今—仙台市の子供の生活意識を探る—」という題で子供の姿をまとめてみた。仙台市の小学校5校，中学校5校にアンケートをお願いし，その結果から考察した。

この紀要をみると，現代の子供たちの考えや様子を知ることができる。教師や親が一方的な考えで「子供だから」とか「子供のくせに」といえない面，教育するうえで子供の実態を考慮して対応しなければならない面を考えてみなければならない。

また，宮城教育大学の雪江教授と関係の先生方をお願いし，座談会を行った。この結果をみると，いまさかに問われている子供たちの意欲や関心などについて，大きなヒントを得ることができるものと思われる。

この調査研究が，いまの子供たちの実態を理解し，今後の指導に役立つものであれば幸いである。最後に，アンケートにご協力いただいた学校，並びに調査研究の委嘱研究員としてご尽力いただいた諸先生方に感謝申し上げる次第である。



子供たちは今

—— 仙台市の子供の生活意識を探る ——

□ 要 約

この研究は、子供は普段どのような意識や考え方をもって生活しているのか、その実態を探り、教育の場に生かすことをねらったものである。

仙台市内各行政区から、小・中学校各1校の小4・小6・中3の子供を対象に、質問紙法による調査を実施し、集計を行った。

集計結果を基に、仙台市の現在の子供の特徴的な姿を明らかにし、これからの望ましい教育の在り方を考察し、提言にまとめた。

□ キー・ワード

☐ 子供の生活意識

☐ 子供の遊び観

☐ 子供の友達観

☐ 子供の健康観

☐ 子供の学習観

☐ 子供の自己像

目 次

I 調査研究の動機	7
II 調査研究の趣旨	7
III 調査研究の概要	8
1 ねらい	
2 調査研究の方法	
3 調査の内容	
4 調査研究の経過	
IV 調査結果と考察	9
1 本当の遊びってなんだろう	9
2 信頼できる友達が欲しい	13
3 健康でくらしたい	17
4 学習は何のために	21
5 心の奥をのぞいてみると	25
V 提 言	
座談会「これからの望ましい教育の方向を探る」	29
資 料	
調査結果の現状分析	41
調査問題及びデータ一覧	48
◇ 委嘱研究員	56

I 調査研究の動機

仙台市の政令指定都市移行に伴って開設が待たれていた仙台市教育センターは、平成5年4月、正式にスタートした。発足とともに、全国11都市で構成されていた政令指定都市教育研究所連盟に加盟することになった。

仙台市教育センターが加盟した平成5年度、政令指定都市教育研究所連盟は、児童生徒の生活意識の調査・分析に取り組んでいた。この研究は、3年間の継続研究であり、本年度は最終の3年目に当たっている。アンケート調査や集計作業は、前年度までに既に終了しており、したがって仙台市の児童生徒の調査データは、連盟の研究に含むことができない状況にあった。

そこで、仙台市教育センターは、政令指定都市教育研究所連盟が実施した児童生徒の意識調査と同様の調査を実施し、独自の視点で児童生徒の特徴的な姿を探ることにした。

II 調査研究の趣旨

今日、核家族化・少子化・高齢化・情報化・都市化などにより、社会の変化が急激に進んできている。このような傾向は、仙台市とて例外ではない。ことに政令指定都市への移行に伴い、急激に大都市化する仙台市の生活環境の変化は、極めて大きいものがある。社会の変化は価値観の多様化をもたらすとともに、人間相互の心の触れ合いや思いやり、信頼・連帯の心を希薄なものにしているといわれる。このような環境の中で生活している仙台市の子供たちの意識や考え方、行動にも、当然大きな変化が生じているものと考えられる。

現在の子供たちの姿は、一般的には「気力に欠ける」「感動する心に乏しい」「がまん強さに欠ける」「友達よりも機械遊びが好き」「集団より

一人遊びを好む」「体力がなく疲れやすい」「テストの成績ばかりに関心が向いている」「他人の言動や情報に流されやすい」「落ち込みやすく、すぐ挫折する」などといわれている。しかし、このような子供の姿は、子供の日々の生活の様子を個別的に見て経験的に語られることが多く、子供の姿の総体としてとらえた上で、明確な根拠に基づいて述べられているかどうかは不明の感がある。また、現象面として見られる子供たちの行動は、どのような意識や考え方に根ざして現れているのかについても、あまり語られていないと言える。

そこで、本研究では、子供たちの生活の中から「遊び」「友達」「健康」「学習」と自分自身のことをどのようにとらえているかという「自己像」の五つの分野について、子供たちにアンケート調査を実施することにした。そうすることで、子供たちは今、どのような意識や考え方をもって行動しているのかその生活実態を、客観的データをもとに明らかにしたいと考えた。分析するに当たっては、KJ法の手法を用い仙台市の子供の特徴的な姿を浮き彫りにすることに主眼をおいた。また、分析結果をもとにこれからの望ましい教育の在り方を、有識者を囲んでの座談会を通して本研究のまとめにした。

学習指導要領は、「社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」を目指している。21世紀に生きる子供たちには、自分の生き方を自分の考えで選択していく強い意志と知恵と行動力を育てることが大切である。ともすると大人は懐古的な気持ちや価値観で子供たちをマイナス評価しがちである。しかし、本研究ではこれからの社会の形成者として生きていく子供たちの良さも発見していきたいと考える。

本研究は、仙台市の子供の生活実態を見極め、未来を見据えた教育の在り方を探るための基礎資料として活用されることをねらっている。

Ⅲ 調査研究の概要

■ 1 ねらい

仙台市に住む子供たちの「遊び」「友達」「健康」「学習」「自己像」についての意識や行動を探り、学校等の教育計画作成や教育課題解明の一助とする。

■ 2 調査研究の方法

(1) 調査問題

質問紙法による留置集合法
(巻末資料参照)

(2) 調査対象校

各行政区より小学校1校、中学校1校を無作為に抽出 計10校

区 名	小 学 校	中 学 校
青 葉 区	上杉山通小学校	三 条 中 学 校
宮城野区	中野栄小学校	田 子 中 学 校
太 白 区	芦 口 小 学 校	愛 宕 中 学 校
若 林 区	若 林 小 学 校	七 郷 中 学 校
泉 区	鶴 が 丘 小 学 校	将 監 中 学 校

(3) 調査対象学年と人数

小学校4年、同6年、中学校3年
各学年400名(男子200名、女子200名)
計1200名

※ 該当学年の全児童生徒に調査実施後、上記の標本数を無作為に抽出

(4) 調査期間

平成5年
7月1日(木)～7月15日(木)

■ 3 調査の内容

- (1)遊び……遊びへの意欲、遊びの概念・種類、遊び相手と誘い方、夢中で遊べるものの、遊びへの要求等
- (2)友達……求める友達像、友達に感じる不安、様々な場面における友達との接し方等
- (3)健康……身体的・精神的・社会的な健康観、健康の情報源の求め方、疲労を感じる事柄等
- (4)学習……勉強する理由、成績への満足度、テストの成績意識、学習塾へ通う理由等
- (5)自己像……家庭や友達からの信頼度・受容度、自己に対する受容度、落ち込みや挫折を感じる要因等

■ 4 調査研究の経過

月	内 容
4月	調査研究基本計画の作成
5月	調査対象校の選定
6月	調査対象校の校長へ趣旨説明 調査用紙の印刷・製本・発送
7月	調査対象校ごとの調査実施
8月	集計データより問題別単純集計
9月	単純集計による分析・考察 クロス集計の観点の設定
10月	単純、クロス集計のグラフ化 分析・考察(KJ法的分析)
11月	・ラベルカード作り ・ラベルカード分類 ・見出し作り ・構造化(図解化)
12月	報告書原稿執筆
1月	報告書原稿検討
2月	座談会・研究のまとめ・反省

IV 調査結果と考察

■ 1 本当の遊びってなんだろう

■ (1) 設問のねらい

遊びは、いつの時代においても子供たちの健全な成長を育むものといわれている。そのために、大人は、子供たちの遊びに無関心ではいけない。

ところが、今日、街角や広場から子供たちの遊ぶ姿が消えてしまったといわれるような状況にある。現代の子供たちの遊びの様子が、大人には見えにくくなってきているのである。

いったい、現代の子供たちの遊びは、どのように変わってきているのだろうか。また、遊びそのものを子供たちはどのようにとらえているのだろうか。

そこで、本調査において、現代の子供たちの遊びに対する意欲、遊びの概念や種類、遊ぶ仲間、遊びへの要求等を探ることにより、遊びに対する子供たちの意識を明らかにしていきたい。

■ (2) 調査の結果

遊びはストレス解消

図1-1は、学校へ行った日の遊び時間を尋ねたものである。

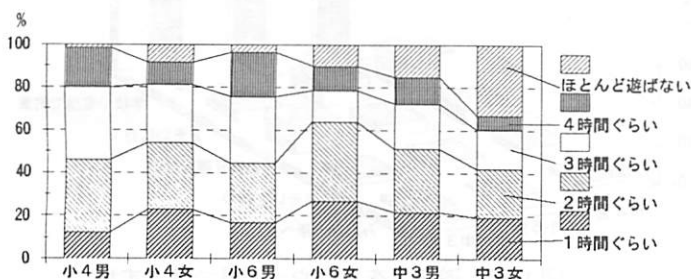


図1-1 遊び時間

各学年を通して2時間ぐらいが最も多く、遊び時間に関する性差はあまり見られない。その中で、特に目を引いたのが、中3女子に「ほとんど遊ば

ない」が、約3割もいることである。

図1-2は、いつもどんな遊びをしているかを尋ねたものである。概して小学生は、ボールゲームなどのスポーツを好んでいるが、中学生になると男子はテレビやCDを好むようになり、女子は特に漫画や読書、テレビやCDを好む傾向がはっきり現れてくることが分かる。

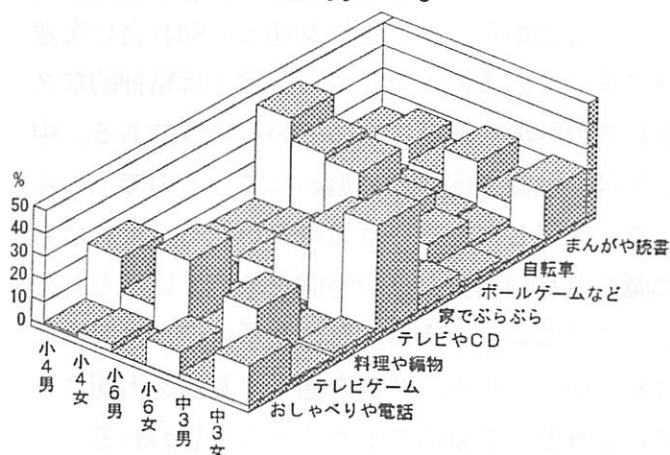


図1-2 どんな遊びが多いか

CDやラジカセ、テレビゲームを好む子供たちにその理由を尋ねたら、「おもしろいから」をあげているのが最も多い。また、「自分の自由ができるから」を理由にしているのが、小学生よりも中学生に多い。学年が上がるにつれて、だれにも煩わされず自分が支配できる遊びを好むようである。「したいとは思わない」というのは、中学生になるとほんの少数で、ほとんどの中学生は、興味・関心を持っていることが分かる。

次に、遊びをどのようなものとしてとらえているかを尋ねたのが図1-3である。

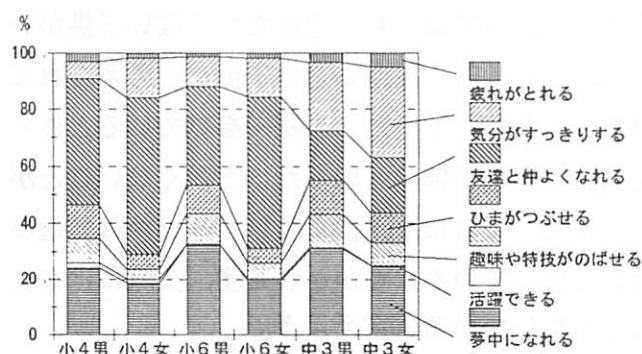


図1-3 遊びはあなたにとってどんなもの

その結果、小学生は「友達と仲よくなれるもの」が多いのに対して、中学生は「夢中になれるもの」

ととらえている者が多い。「気分がすっきりするもの」と考えているのも中学生に多く見られる。また、性差でみると、男子は「夢中になれるもの」や「ひまがつぶせるもの」「趣味や特技がのびせるもの」と考えている者が多く、女子は「友達と仲良くなれるもの」「気分がすっきりするもの」と考えており、明らかに違いが見られる。

このことから、小学生は友達との触れ合いを遊びに求めているのに対して、中学生は精神的なストレスの解消を遊びに求めているようである。中学生は、勉強や部活動に追われているので、のんびりと休息したいという気持ちが強く、だれにも邪魔されない自分だけの時間を求めていると言えるのではないだろうか。更に女子は遊びに夢中になるというよりも、遊びを通して友達を大切にしたいこうとする気持ちがあるように思われる

その他、「夕食や宿題を忘れてしまうほど夢中になって遊んだことがあるか」に対しては、「何度もある、時々ある」が男子に多く、逆に、「あまりない、まったくない」が女子に多いということが分かった。

また、学年が上がるにつれて、室内でテレビやテレビゲーム、ラジオカセット、マンガ、雑誌を好んで求めている。遊びの種類から考えられることは、戸外で遊ぶよりも、室内で遊ぶ傾向が学年が上がるにつれて高くなっている。特に、女子は室内で時間を過ごす傾向が強いようである。

元来、子供たちは体を動かすことが好きなはずである。かつては、もし遊びたがらない子供がいたら、それは体の具合の悪い子供だと考えられていた。しかし、子供たちの様子を見てみると外で元気良く遊ぶ子供は、思ったほど多くないことが分かった。これは、子供たちは友達と戸外で遊びたいと思っているにもかかわらず、実際にはあまり遊べないでいると言えよう。

現代は、室内で時間を過ごすことが多く、遊びに「気晴らし」や「休息」を求める傾向が強くなっていることが分かった。

いつも決まった友達と

友達の範囲については、小学生が「同じクラスの友達」が5割を超えているのに対して、中学生は「同じ学年の友達」が6割を超えるというように、少し範囲が広がっているのが図1-4から分かる。

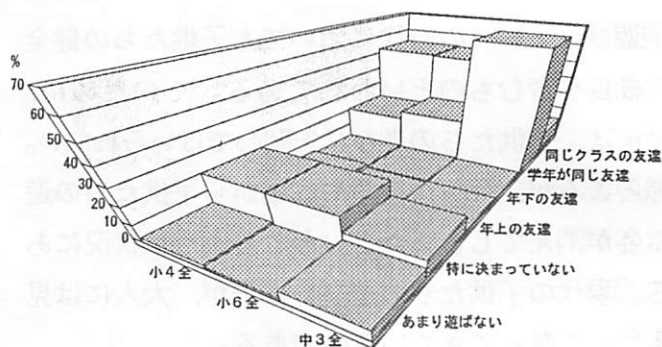


図1-4 遊ぶ友達はどんな人が多いか

このことは、あらかじめ予測されていたことだが、小・中学生のいずれも友達の範囲は同年齢の子供がほとんどであり、年下や年上の友達と遊んでいる子供たちはあまりいないことが、子供たちの意識からも裏付けられたと言える。こうして見えてくると、友達は自分の家の近くからというよりも学校を基盤として成り立っていることが分かる。

次に、図1-5からいっしょに遊ぶ友達のどのようにして見つけるかについて見てみると、小・中学生とも「学校や電話で約束してから遊ぶ」が6割から7割を占めており、非常に多い。

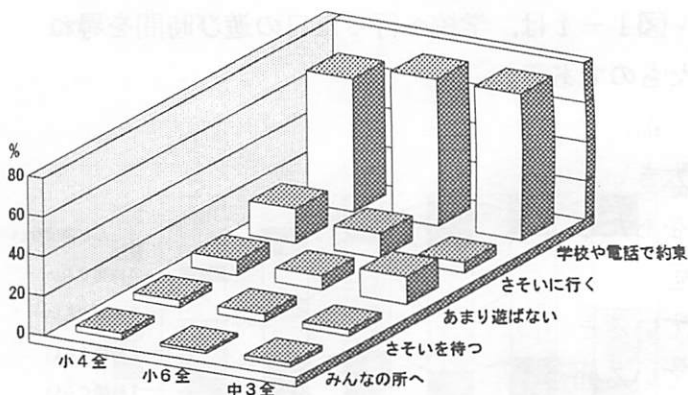


図1-5 遊ぶ人をどうやって見つけますか

この調査からも、自ら自由に遊び場に出かけたり、友達を誘いに行ったりする子供の姿をあまり見かけなくなった理由が確かめられたと言える。学習塾やけいこ事に通う子供たちが多くなった現

在、どこかの広場や空き地に行けばだれかが遊んでいるような状況ではない。子供たちは、友達がいないので、遊びたくても遊べない実情である。そのために、「今日は、だれが家にいる日か」とか、「何時から何時までに遊べるのはだれか」とかいった遊びの予定を自分自身で立てなければならないようである。

しかしながら、学校や電話で約束を取り付けて遊ぶ現代の子供の姿は、社会の変化に敏感に適応する、いわば、子供たちの生活の知恵とでも言うてよいだろう。

手軽に遊びたい

図1-6は、半日好きなことができるとしたら、何をしたいかという設問である。

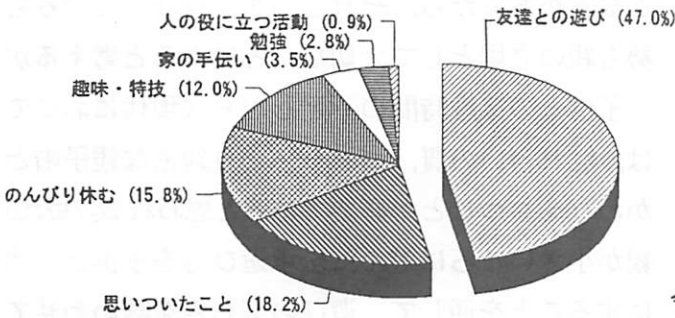


図1-6 半日好きなことができるとしたら

調査した子供の約5割が「友達と遊びたい」と思っている。この回答で特に注目されるのは、「人の役に立ちたい」と考えている子供たちが、ほんのわずかしかないことである。また、「思いついたこと」をするというの、2割程度しか見られない。そこには、少数ではあるが自ら積極的に行動しようとする意欲に欠ける現代の子供の姿をかいま見る思いがする。

もっと時間が欲しい

遊びに対して、これから何を望むか尋ねたのが図1-7である。ここでは「遊ぶ時間がもっと欲しい」という子供たちが最も多い。また、「今よりもっと遊びたいか」という設問に対して、「遊びたい」が6年の女子を除いては5割から6割を

占めている。特に、中3女子は6割を超えている。

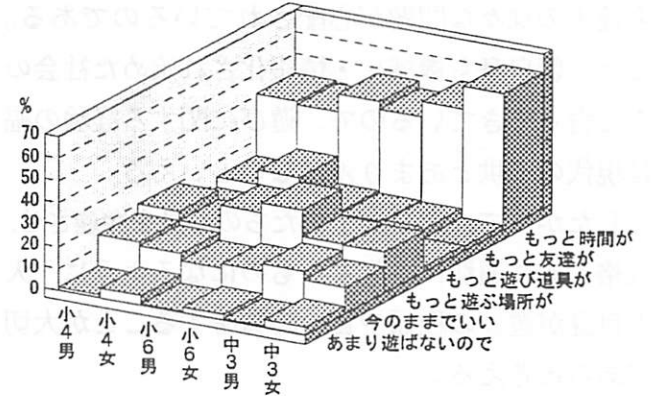


図1-7 もっとこうなればいいと思うこと

小・中学生とも、少なくとも2時間は遊んでいるにもかかわらず、この調査の結果から、もっと遊びたいという強い願いをもっていることが分かる。ここに子供らしい欲求が現れていると言える。

次に、「ほとんど遊ばない」と答えた人数の多い中3は、遊びについてどのようなことを望んでいるのかを見たのが図1-8である。

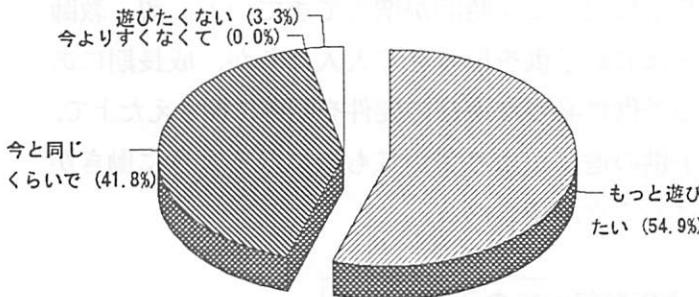


図1-8 ほとんど遊ばないと答えた中3は

「ほとんど遊ばない」と答えた者の半数近くが、「もっと遊びたい」と回答している。中3の半数が、塾に通っているという調査結果から見て、遊びたくても、遊べない実情にあると思われる。

(3) 提 言

遊びに必要な要件の共通理解を

社会が急激に変化し、ますます情報化する世の中を生きていく子供たちなのだから、テレビゲーム化した商品などで遊ぶこと自体、今はやむを得ない状況にあると言える。しかし、子供たちがそ

の遊びだけに目が奪われてしまうところに、心身発達上の様々な問題が心配されているのである。また、親自身も機械化・情報化され始めた社会の中で育ってきているので、遊びに関する経験の幅は現代の子供とあまり差はないといえる。

したがって、遊びが子供たちの心身を発達させ、人格形成に適切に寄与するものになるように、大人自身が遊びの種類や質の吟味をすることが大切であると考ええる。

子供の遊びに望ましい要件としては

- ◎ 体力がつく
- ◎ 直接体験をつむ
- ◎ 社会性が培われる
- ◎ 工夫するので創造性が身に付く
- ◎ 頑張るのでやる気が育つ
- ◎ 精神的に安定する

などがよく指摘されている事柄である。

学校週5日制が導入されてきている現在、家庭や地域で過ごす時間が増えてきている。親、教師をはじめ子供を取り巻く大人たちが、成長期にある子供に必要な遊びの要件を明確に押さえた上で、子供の遊びがより豊かなものになるように働きかけることが望まれる。

異年齢集団での活動の場を

調査結果から分かるように、学校での遊び仲間が、学校を離れても遊びの基盤を成している。このことは、学校で過ごす時間が多いということからも当然であろう。

そこで、学校教育の場においては、異年齢集団における活動の場を一層重視することが求められる。その際、機械的、形式的に異年齢集団を構成することを避け、目的別や地域別など子供にとって意味のある集団をつくるような配慮が望まれる。そうすることにより、子供たちは充実感を味わい、しかも交遊範囲を広げていくことができるものと思われる。

最近、特に、ボランティア精神やボランティア

活動の重要性が叫ばれている中で、「人の役に立ちたい」と考える子供たちが少ないという結果が出ている。今後、学校教育や地域社会の場で、実践的な活動をする機会をつくって、その意義を理解させたり活動の喜びを実感させたりすることが大切であると考ええる。

親子一緒に時間を

親の立場から言えば、まず、子供と一緒に過ごすように心がけていくことが大切なことと考える。「親子の触れ合い」を求め、親が子供と一緒に生活体験や自然体験をするような積極的な働きかけをすることが期待される。そこで得た体験は、子供たちにとって有意義なものとなるはずである。また、失敗したこと、思うようにいかなかったことなどがあつたら、それを温かく見守ってやる姿勢も親の立場として大切なことであると考ええる。

子供との接触時間の不足しがちな現代においては、触れ合いの質、つまり、より親密な親子のかかわりをもつことが必要であると思われる。また、親が小さいころに遊んだ伝承遊び等を子供と一緒にすることを通して、遊びの楽しさを味わわせてやったり遊びの種類を増やしてやったりすることも大切なことである。

社会教育施設の有効な利用を

学校週5日制が導入されるようになって、社会教育施設（例えば、図書館、博物館、科学館、体育館、天文台、市民センターなど）においては、子供たちの立場に立った内容や行事など様々な催し物が行われるようになった。日常生活圏の中に設置されているこれらの施設を有効に活用していきたいものである。調査の結果からも分かるように、年齢の異なる子供たちが一団となって熱中して遊ぶ姿は、見られなくなった。このことから積極的に利用していくこと、更に、地域の子供たちが楽しく利用できるような関係施設の一層の整備充実を期待したいものである。

■ 2 信頼できる友達が欲しい

■ (1) 設問のねらい

最近、子供のいじめや自殺が増加しているといわれる。とりわけ小学校高学年から中学生にかけてのケースが多いという。

本来、自分を理解してくれるかけがえのない存在であるはずの友達が、こともあろうに仲間をいじめたり死に追いやってしまったりする現実を、我々はどう考えたらよいのか。

現代社会にあって、子供たちを取りまく環境は大きく変化してきている。このような中において、子供たちの友達観も、変わりつつあるのだろうか。

今の子供たちにとっての友達とは、一体何なのか。また子供たちが求めている友達像とはどんなものなのか。そして子供たちは友達とどのようにつき合っているのだろうか。このような疑問を明らかにし、今を生きる子供たちの友達像を探ろうと、本設問を設定した。

■ (2) 調査の結果

図2-1は、「友達からどう思われているか気になることがあるか」を質問したものである。

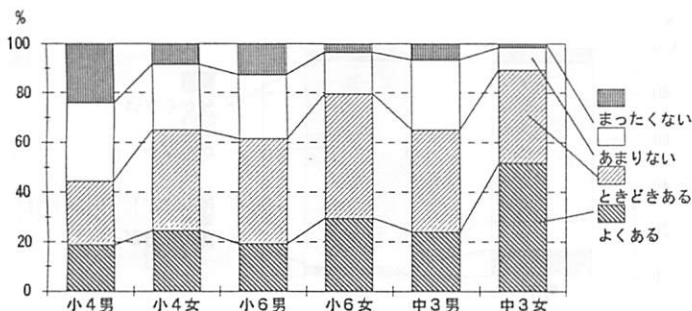


図2-1 どう思われているか気になることは

ここで「よくある」「ときどきある」と答えた者の割合をみると、男女とも小6を境に、その割合が増える傾向にあることに気付く。

この図からみるかぎり、友達からどう思われて

いるか気になり始めるのは、男子も女子も小6のころからだと言える。しかも、どう思われているか気になるのは、男子よりは女子に多いのである。

こんな人がいいな

「どんな友達が欲しいか」という設問に対して、「おもしろい人」と回答した者は、学年が上がるにつれて減少し、代わって「気楽につき合える人」が増加していることが図2-2から分かる。

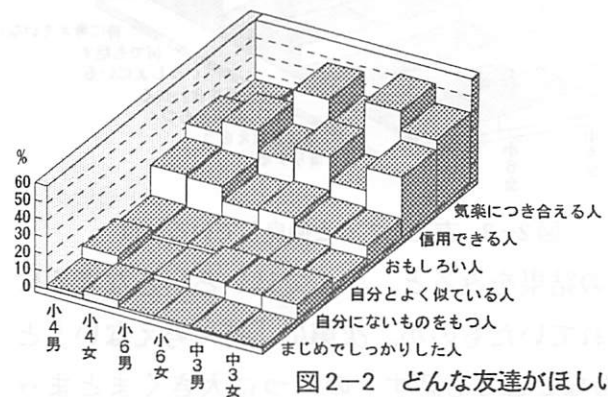


図2-2 どんな友達がほしいか

しかし、大人が「良い友達」と考えがちな「まじめでしっかりした人」を選んだ者は、どの学年でも極めて少ない。特に中3では、男女合わせても1%にも満たない。

この結果からも分かるように、子供たちは、お互い気楽な関係でいられるような者を友達として求めているということである。大人が「良い子」と考える、まじめでしっかりした子とは付き合いにくいと感じており、また逆に、ただ面白いだけの友達でもいやだと感じていることが分かる。

次に特徴的なことは「信用できる人」を選んだ者の数である。男子は学年が上がるにつれて少なくなっているが、女子は各学年とも比較的高い割合を示し、しかもその割合はあまり変わっていない。子供たちは気楽な友達関係を求めつつも、どこかで心理的なきずなを求めているものと考えられる。

これらのことを考え合わせると、子供たちの求める友達が、ただの「おもしろい人」から、次第に「気楽につき合える人」や、「信用できる人」というように変わってきていることもうなずける。

なかでも「信用できる人」を求める傾向は、とりわけ女子に多く見られる。

軽い‘ソリ’で付き合いたい

図2-3は、「友達とずっと仲良しでいるにはどうしたらよいか」を尋ねたものである。

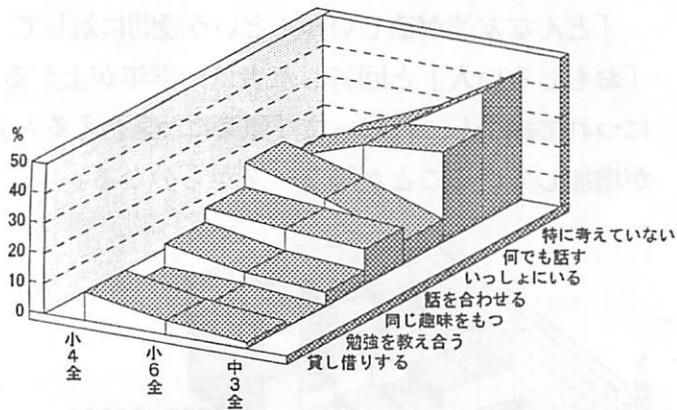


図2-3 友達とずっと仲良しでいるには

この結果をみると、小4ではいろいろな考えに分かれていたものが、次第に「特にかえない」と「どんなことでも話す」の二つに大きくまとまってきたのが分かる。しかもこの二つの考え方は、学年が進むにつれて増えてきているのである。

前項の結果も考え合わせてみると、現代の子供たちは、友達付き合いにしても気楽な関係を求める傾向にあると言える。つまり、子供たちはお互いに自分の本音をぶつけ合ったり、本心をさらけ出したりするような付き合い方を求めているのではないのである。

しかし、「どんなことでも話す」を選んだ者に注目してみると、図2-4のように、自分の本当の気持ちを話せる人がいると感じている者が三分の二以上もいるのである。

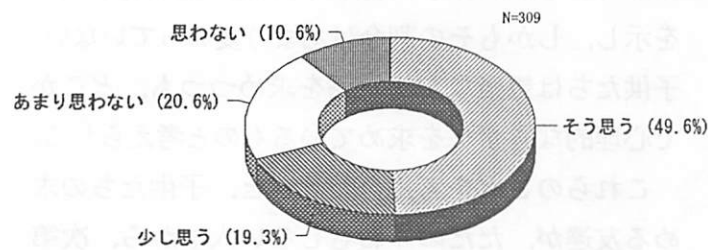


図2-4 「どんなことでも話す」の選択で「本当の気持ちを話せる人がいる」に対し

気楽な軽い友達関係を続けていきたいと考えている子供たちは確かに多いが、本当の気持ちを話せるような友達がいれば結構いろいろなことを話してみたいと望んでいるのではないだろうか。

そのことが、次の図2-5の「遊びにいこうとしている時に相談を持ちかけられたらどうするか」を尋ねた結果にも表れていると言える。

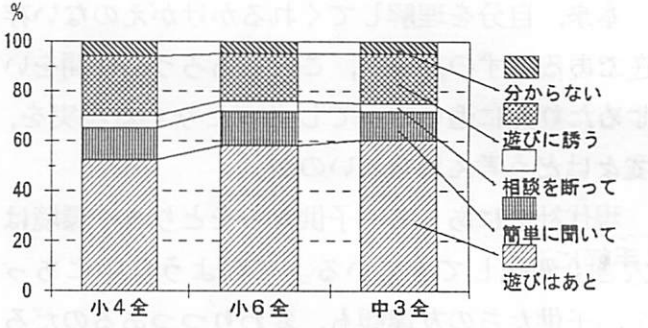


図2-5 遊びに行こうとした時相談されたら

全般的にみて、子供たちは、自分のことよりも友達の相談を優先していると言える。特に学年が上がるにつれてその傾向は強くなっている。このことは人間関係の広がりや子供たちの発達段階ともかかわってくるのだろうが、次第に友達の大切さを感じてきていることの現れであろう。

しかし、「(絵がうまいとは思えないがアニメ作家になりたいという友達に対して)あなたは何かと言いますか」に対する回答結果(図2-6)では、男子と女子とでは、その対応のしかたに違いが見られた。

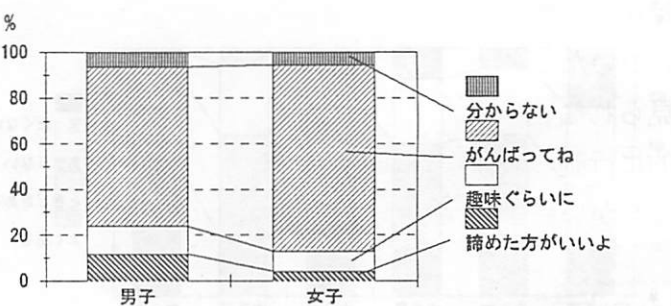


図2-6 アニメ作家になりたいという友達に

励ましてやる者が最も多いのは男女とも共通であるが、男子は「あきらめたほうが良い」とか「趣味ぐらいにしておいたら」と自分が思ったことを素直に友達に話すという者が約25%に上るの

に対して、女子ではその約半分の13%程度しかない。つまり、男子は割合率直に自分の考えを伝えてやるのに対し、女子はまず相談した友達の気持ちを推察し、本心とは裏腹に「がんばってね」と一応は励ましてやるような接し方をする者が、やや多いということである。

また、ダイエットに誘われた時の対応のしかたをみても、同様のことが言える。

男子はここでも6割近くの者が「自分には関係ないからしない」と考えているのに対して、女子は「友達がするのなら自分もする」とか、「ちょっとはつき合うがそのうちやめる」という者が圧倒的に多いのである。ここにも、女子は自分よりもまず相手に合わせていこうという姿が見られる。

自分らしさを大切にしたい

「友達が流行の服装やヘアスタイルをしていたらどう思うか」の問いでは、「関係ない」「くだらない」と考える子供たちが女子で約50%、男子では80%近くもいることが図2-7から分かる。

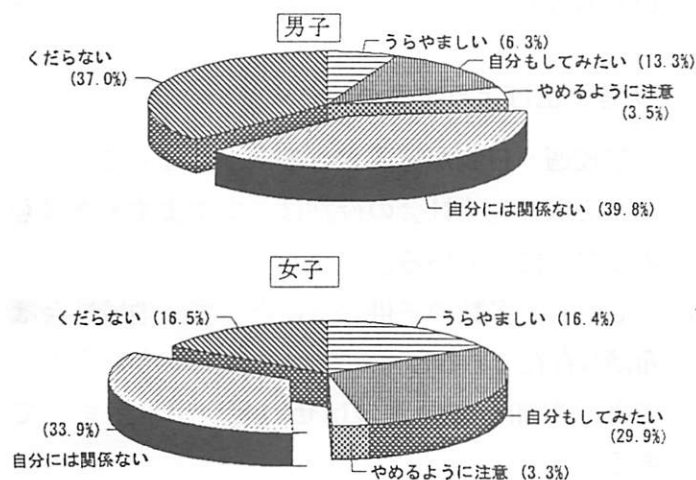


図2-7 流行の服装やヘアスタイルをしていたら

これも、前項と同じ傾向である。しかし、考えてみると、これは友達付き合いというよりは、むしろ「自分らしさ（アイデンティティ）」に含まれるべき事かもしれない。服装や髪型は、子供たちの自己主張の表れでもあると言える。

また、「ジュースを買って飲もう」と誘われた

時の回答をみても、子供たちは学年が上がるにつれて「自分が飲みたければ飲む」と考えるようになっていることが図2-8から分かる。

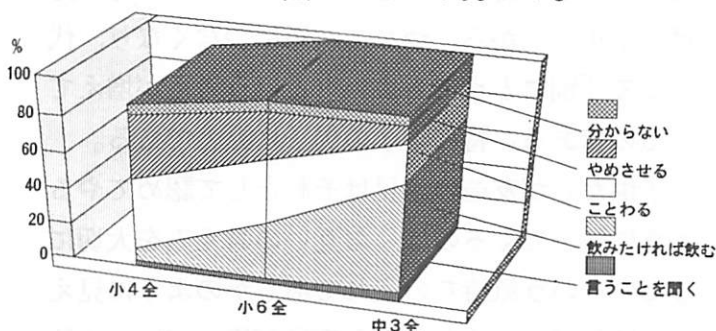


図2-8 ジュースを買って飲もうと友達に誘われたらどうするか

このような「自分は自分、他人は他人」という意識が、「自分らしさ」を形づくる柱として、子供たちの成長とともに大きなウェイトを占めてきていることは間違いないだろう。

そしてこのことが、子供たちに気楽に付き合える友達関係を求めさせているとも言えるのではないだろうか。そこには自分も相手に深入りしないかわり、相手からも立ち入られたくないという気持ちも込められているような気がする。それが、子供たちの自分らしさを形成することにもつながっていると考えられるのである。

違う意見もあった方がよい

図2-9は「自分と違う意見の人がいた時どうするか」を尋ねたものである。

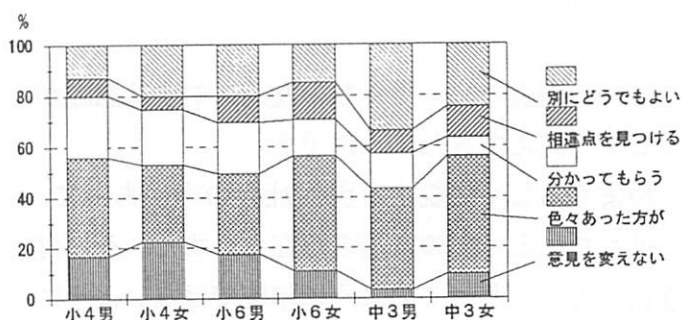


図2-9 自分と意見の違う人がいたら

この回答には、学年によってかなりの違いが見られたが、各学年に共通して最も多かった考えは「いろいろな意見があったほうがよい」というも

のであった。

「自分の意見を変えたくない」とか「自分の意見を説明して分かってもらう」とかという考え方は、学年が上がるにつれて次第に少なくなり、代わって「別にどうでもよい」という考えが増えてくるのである。特に中3の男子に顕著である。

子供たちが友達の意見はそれとして認めてやるようになってくるのは、お互いの考え方を大切にしたいという気持ちの表れであるかのように見える。けれども、それは人と意見が違っていても積極的に友達と意見を戦わせたり、自分の考えを分かってもらおうとする努力はあまりしただけになってくる、ということでもあるようだ。

ここにも他とのかかわりに消極的な現代の子供たちの姿をかいま見ることができる。

以上見てきたように、子供たちは友達からどう思われているか気になり、また何でも話ができる心の友を求めている反面、自分から積極的にかかわっていかうとする子供は少ないことが分かった。

その付き合い方をみると、男子は、率直に自分の意見を言ってやる方が友達のためだと考える者が多い。一方女子は、その場で一応は話を合わせておき、相手の自尊心を傷つけないように気を遣っている者が多い、といったところなのではないだろうか。

■ (3) 提 言

今回の調査で、子供たちの友達に対する意識が少しずつ見えてきたように思う。

めまぐるしく変貌する現代社会の中であって、子供たちにとっての友達の存在も、また、その付き合い方も、かつてのように単純ではないようにみえる。

手をかけないで目をかけて

子供たちが友達と接する時間が最も長いのは、何と言っても学校である。学校という集団の中で、

子供たちは友達の良さやお互いに連帯していくことの大切さを学びながら成長する。

したがって教師は、学年・学級づくりを通して、児童生徒一人一人の個性を認め、伸ばせるような仲間づくりを心がける必要があろう。そして、良好な友達関係が築けるように、温かい目で見守り、その上で目を配ってやることが望まれる。

海より深い愛情で

子供たちは、成長とともに親の傘の下から離れ、自分の力で立ち、自分の仲間を求めようとする。その際、親は、驚き、戸惑い、時には必要以上に子供に干渉してしまうことがある。

だが、子供には子供の世界、友達関係があるのであり、親が大人の価値基準で軽々しく子供の友達のことを評価することは避けたいものである。

子供たちが友達関係に悩み、疲れた時に帰れる所は、やはり自分の生まれ育った家庭しかないのである。子供たちとの皮相的な親子関係ではなく、率直に相談でき、信頼できる温かい親子関係を育てることが、親として一番大切なことなのではないだろうか。

大きく広げよう友達の輪

学校週5日制が導入されるようになって、子供たちを取り巻く社会の役割は、ますます大きなものとなってきている。

しかし大多数の子供たちにとって、地域社会は希薄な存在であると言ってよい。地域の行事があっても、参加しているのはせいぜい小学生までである。

これでは、子供たちがより広範な子供たちと友達になることや、異年齢同士が結び付くことができなくなるのは、当然である。

社会（特に地域社会）が子供たちの活動の中心となり、より多くの子供たちと、あるいはいろいろな大人の人たちと、心の触れ合いができるような場がさらにつくられていくことが望まれる。

■ 3 健康でくらしたい

■ (1) 設問のねらい

現代社会では、子供にも大人と同じような高血圧や肥満などの成人病がみられるようになってきた。子供は健康なのが当たり前というこれまでの固定観念が崩れつつあるようだ。いったい、現代の子供たちはそれほど不健康な生活を送っているのでしょうか。また、健康についてどんな意識をもっているのでしょうか。意識と現実の生活との間にずれはないのでしょうか。そこで、子供の健康について、その実態と意識との両面から調査・分析を試みた。生活の実態については、就寝時刻、朝食の有無、疲労感など、健康意識については、身体・精神・社会の各面から調査した。

■ (2) 調査の結果

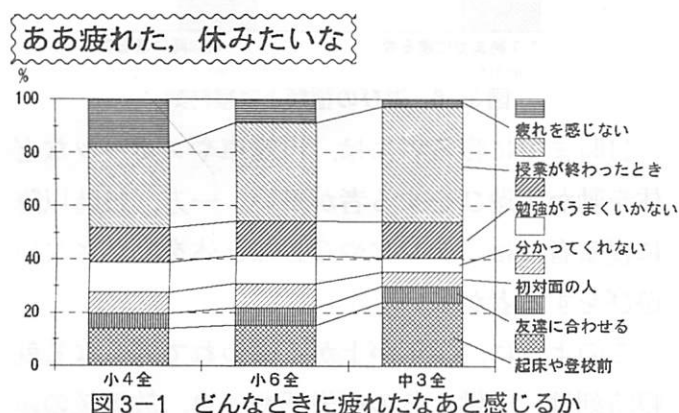


図3-1は、「あなたは、どんなときに疲れたなあと感じるか」の回答結果である。3つの学年全体では、「一日の授業が終わったとき」が最も多い。また、「朝起きたときや学校へ行くとき」と答えた者は学年が上がるにつれて増加している。一方、「友達に合わせて話や行動をしたとき」、「友達とけんかをしたり分かってくれなかったりしたとき」、「初めて会った人と話や行動をしたとき」など友達や対人関係に疲れを感じる者は、学年が上がっても割合があまり変わらない。その割合も10%前後で高くない。このことから、子供

たちは学校の授業に疲れを感じ、対人関係にはあまり疲れを感じていないことが分かる。

では、子供たちは体が健康であるために何が大切だと考えているのだろうか。

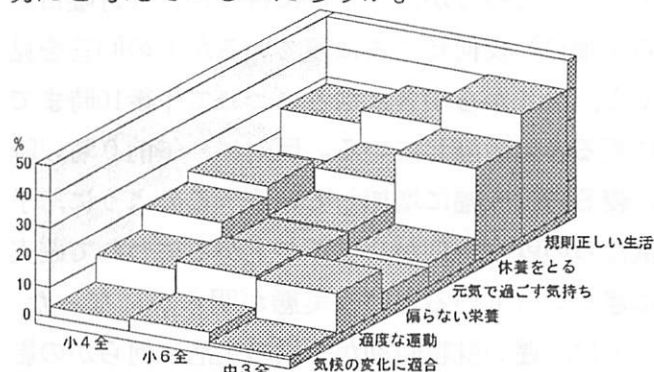
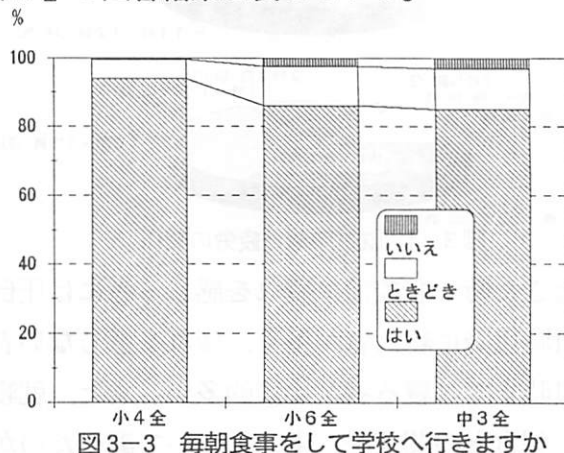


図3-2から、学年が上がるにつれて、元気で過ごそうという気持ちやバランスのよい栄養よりも、休養や規則正しい生活を大切に考える者が多くなることが分かる。

図3-3は、「毎朝、食事をしてから学校に行くか」の回答結果を表している。



中3では、2割近くの者が朝食をとらずに登校している。このことは、学年が上がるにつれて、規則正しい生活が大切だという意識と実生活とのずれが大きくなってくことを表している。

このように、子供たちは学校の授業や勉強に疲れているので、体の健康のためには、まず第一に休養や規則正しい生活を大切に考えるようになるのではないだろうか。元気で過ごそうという気持ちをもったり栄養に気を配ったりするよりも、まずはゆっくりと休み、規則正しい生活を送りたいというのが子供たちの本音ではないだろうか。

寝るのは遅いよ

体の健康のために休養や規則正しい生活を大切に考える子供たちが、実際には毎日何時ころに寝ているのだろうか。「学校に行った日（月曜日から金曜日）夜何時ごろに寝ているか」の回答を見ると、小4から中3になるにつれて午後10時までに寝る者は激減している。反対に、午前0時以降に寝る者は大幅に増加している。このように、子供たちの就寝時刻が、学年が上がるにつれて確実に遅くなっているという実態が明らかになった。

では、遅い就寝時刻が子供の生活に何らかの影響を及ぼしていないのだろうか。まず、「就寝時刻」と「どんな時に疲れを感じるか」との関連を、中3の「起床や登校前」、「疲れを感じない」と答えた者について調べたのが図3-4である。

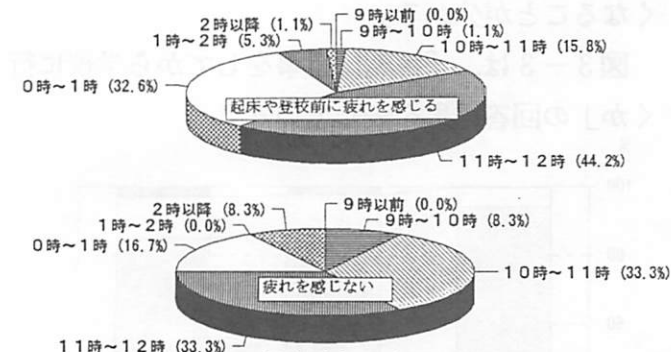


図3-4 就寝時刻と疲労の関係

朝起きた時や登校前に疲れを感じる者には圧倒的に11時以降に寝た者が多く、疲れを感じない者には11時までに寝る者が比較的多い。また、就寝時刻と朝食との関連を、中3について調べたのが図3-5である。

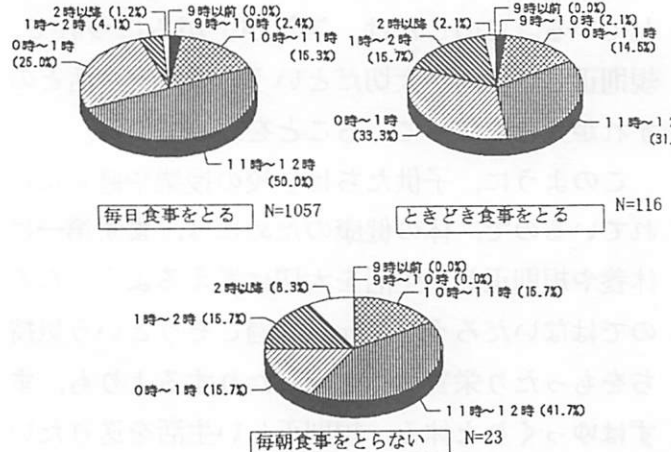


図3-5 就寝時刻と朝食の関係

毎朝食事をする者には11時までに寝る者が多く、「ときどき」「とらない」と答えた者には11時以降に寝る者が多い。就寝時刻が早い者は、前日の疲れを解消し、朝食をきちんととって登校し、就寝時刻の遅い者は登校の直前まで寝ていて、朝食もとらず、体も十分に目覚めていない状態で登校するため、朝から疲れを感じているのではないだろうか。普段から指摘されていることが、子供たちの意識からも確かめることができたと言える。

では、学校が終わってからの遊びと就寝時刻の間には何か関係があるのだろうか。「就寝時刻」と「学校が終わってからの遊び」との関連を表したのが図3-6である。

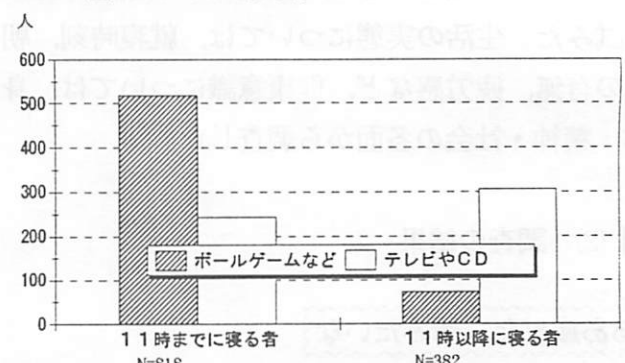


図3-6 遊びの種類と就寝時刻

11時までに寝る者には、自転車やスポーツなど体を動かす遊びをする者が多い。一方、11時以降に寝る者には、テレビやCDなど体を動かさない遊びをする者が多い。

このように、学年が上がるにつれて遅くなる就寝時刻は、子供たちの疲労感や朝食、放課後の遊びなど、一日の生活の基本的な部分に大きな影響を及ぼしていると考えられる。

わたしにはこれが大切！

「健康」といえば、すぐに体が健康であることを思い浮かべるが、そればかりではない。「精神的な健康」や、「社会的な健康」という概念も必要である。子供たちは、これらのことについてどのように考えているのだろうか。

「あなたは、心が健康であるためには何がいちばん大切だと思うか」の回答をまとめたのが図3

ー7である。

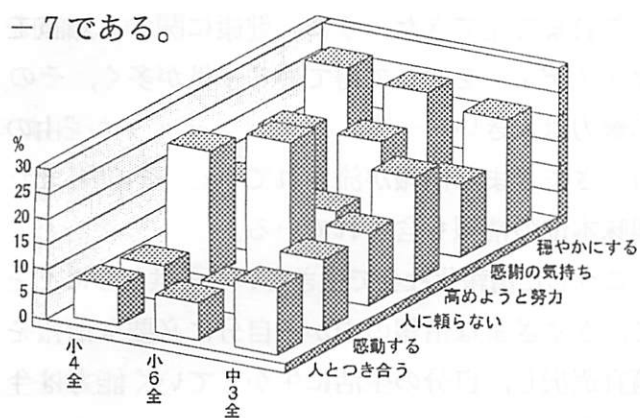


図3-7 心が健康であるために大切なこと

小4では「怒らないで、おだやかにしている」、小6では「人にたよらず自分で決める」が最も多い。これらの項目は、それぞれの学年の発達段階の特徴を表していると言える。中3になって、どの項目も同じような割合を示すようになってくるということは、この年代の子供たちの、心の健康に関する意識が多様化してくることを物語っている。

では、健康に関する社会的な面での意識はどうであろうか。「あなたは、健康でよりよい生活を送るためには、何がいちばん大切だと思うか」の回答結果が図3-8である。

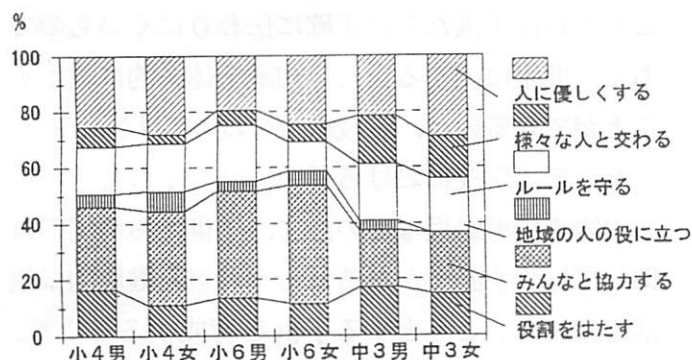


図3-8 健康でよりよい生活を送るためには

小4と小6は同じ傾向であるが、中3になるとどの項目も同じような割合になってくる。このように、心の健康に関する意識と同じように社会的な健康に関する意識も多様化してくることが分かる。そのなかで特徴的な傾向が二つある。一つは「地域の人役に立つ」と答えた者が、学年が上がるにつれて確実に減少し、その割合も非常に少ないということである。特に、中3女子でこの項目を選んだ者は一人もいない。二つ目は、それと

は反対に、「いろいろな人と交わる」と答えた者が確実に増加しているということである。特に小6から中3にかけての増加が著しい。

学年が上がるにつれて、いろいろな人と交わることが大切だと考える者が多くなるが、地域社会という意識が薄れつつあるようだ。地域の人の役に立つことがやがては自分のためにもなるといった間接的なことよりも、直接自分のためになることを大切に考えているのではないか。ここには、現代の大人の意識が反映しているのではないだろうか。

このように、身体的な健康だけでなく、精神的、社会的な健康に関する意識は、学年が上がるにつれて、大多数の者が大切と考えるような絶対的な基準をもったものがなくなり、価値観が多様化してくるのが特徴である。そこには、各年代の発達段階とともに、現代社会の価値観も色濃く反映している。

メディアが先生！

健康に関する意識のもとになる知識を、子供たちは何を通して身に付けているのだろうか。

「あなたは健康についての知識を何から知ることが多いか」の回答を表したのが図3-9である。

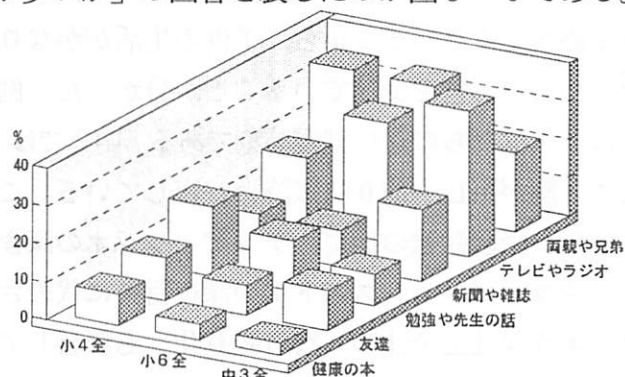


図3-9 健康についての知識を何から得るか

図から、学年が上がるにつれて、「テレビやラジオ」「新聞や雑誌」「健康のことを書いた本」といったマス・メディアの影響が強くなっていくことが分かる。現代の情報化社会の影響であろう。一方、「学校の勉強や先生の話」と答えた者は少なく、中3では1割に満たない。健康の知識に関

して、学校の影響力は小さいと言わざるを得ない。

では、マス・メディアは、子供たちの生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。健康に関する習慣として最も一般的と考えられる歯みがきについて、その影響を調べた。図3-10は、「あなたが歯みがきをするのは、むし歯を予防するためのほかにどんな理由があるか」の回答結果を表している。

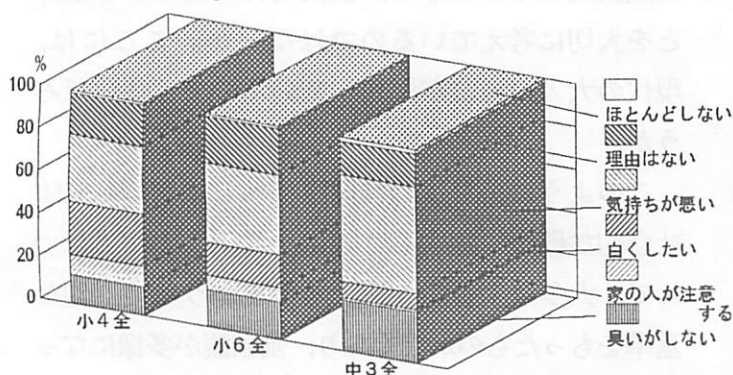


図3-10 歯磨きのむし歯予防以外の理由

「みがかないと気持ちが悪いから」がどの学年でも最も多く、次いで「口からにおいがしないように」が多い。むし歯の予防以外に、自分や他人に与える不快感を解消するために歯みがきをする者が多いということである。これには、歯みがきのそう快感や口臭の予防を強調したCMなどが強く影響していると思われる。

以上、子供たちの実態や意識について特徴的な点を述べてきた。そこから、子供の生活がかなり現代社会の影響を受けていることが分かった。例えば、子供たちの遅い就寝時刻である。中3では、実に3割が毎日午前0時以降に就寝している。これには、受験勉強の他に、テレビ・ラジオの深夜放送やコンビニエンスストアの深夜営業に代表されるような社会全体の「宵っ張り化」も影響しているのではないかと。また、健康に関する価値観が多様化してくるのは、情報化社会の影響ではないだろうか。

■ (3) 提 言

情報に振り回されない子供に

これまで見てきたように、健康に関する知識をマスメディアを通して得ている子供が多く、その影響力は大きい。一方、マス・メディアからは、毎日さまざまな情報が流されている。その中には、興味本位の情報も含まれている。

こうした情報化社会で生きていく子供たちにとって、さまざまな情報の中から自分に必要な情報を適宜選択し、自分の生活に生かしていく能力は今後ますます大切になってくるだろう。より健康な生活を営むためには、最新の研究の成果など健康に関する情報を有効に利用することは重要である。子供たちのこうした能力を、学校や家庭の教育を通して育てていくとともに、情報を積極的に生活に生かしていこうとする姿勢を培っていくことが必要である。

健康教育の見直しを

先に述べた調査の結果から、健康に関する知識に関して、学校教育の子供たちへの影響力は、マス・メディアと比べて非常に弱いことが分かった。マス・メディアからの情報は一過性のものであり、ともすれば子供たちに正確に伝わりにくいものである。健康に関する正しい知識を体系的に教えることができるのは、学校教育においてほかにない。

そこで、学校における健康に関する教育を、その内容や指導過程などの面で、子供たちの実態に即して見直す必要があるだろう。自ら健康的な生活を営んでいこうとする子供を育成することは、生涯学習という視点からも重要なことである。

家族で健康に暮らす

家庭は、よりよい健康的な生活を、実践を伴って子供に教えることができる場である。子供が小さいころはもちろん、中学生のようにある程度成長してからも、親はもう少し子供の健康に留意したいものである。体格は大人並みでも、まだ成長の途上である。家族で健康に暮らすことが、子供の健康を増進することにつながるのである。

■ 4 学習は何のために

■ (1) 設問のねらい

学校での子供たちの様子を見ていると、休み時間や友達との触れ合いを楽しみにしている。教科の学習でも、算数より体育の方が好きな子供が多い。子供の意識はそんなものだったはずである。ところが、受験戦争と呼ばれる今日の日本では、家庭での手伝いの時間すら削って学習に励ませる事態になっている。そのような中で、子供たちは、学習とはどのようなものであると受け止めているのであろうか。

本調査では、学習の様々な側面の中から、子供たちが学習に対して何を考えているのかという意識面と、どう行動しているのかという行動面の二つに焦点を当て、現代の子供の姿を明らかにしていきたい。

■ (2) 調査の結果

気になる成績、何とかしたい

テストの成績は子をもつ親にとっては重要な関心事の一つであるが、その点、子供たちはどう考えているのであろうか。それを、テストの結果に対する子供たちの反応から探ってみよう。

図4-1は「テストの点数で一番気になることは何か」を尋ねた調査結果である。

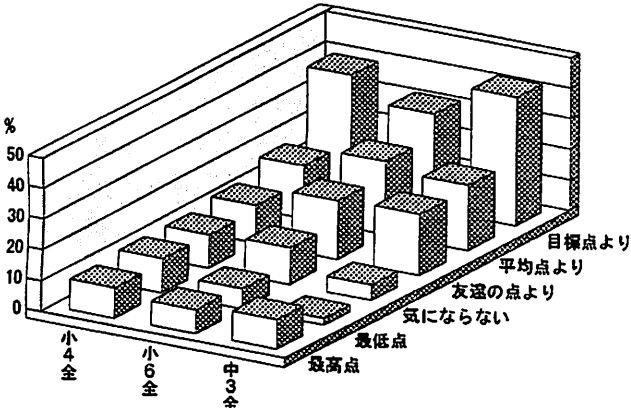


図4-1 テストで一番気になることは

この中で、「クラス(学年)の最高点・最低点・平均点」と「友達の点数」が一番気になる子供

との割合を合わせると、どの学年も5割以上になっている。

また、これを設問の項目ごとに詳しく見てみると、全体のおよそ4割の子供が「自分が目標にしていた点数より上か下か」が一番気になると回答しており、その割合はどの学年でもトップとなっている。特に、高校受験を控えた中3では、その割合が高くなっている。

一方、「点数は気にならない」と答えた子供の割合は全体の1割にも満たない。中3になると、その割合は半減している。

これらのことから、まず、ほとんどの子供たちは、テストの点数を大変気にしていることが分かる。そして、どの学年においても、クラスあるいは学年全体や友達という、周囲との比較で自分のテストの点数を評価する者が多いことも分かる。

また、学年が上がるにつれて、自分の目標に照らしてテストの点数を見つめ、冷静に自己評価できる姿勢ができてくると推察することができる。特に、中3では、高校受験が目前にあるために、自分の進学先に合わせた目標点を設定し、テストにも臨んでいることがうかがえる。

それでは、子供たちは、自分の学習成績に対してどのような意識をもっているのだろうか。

「あなたの学習成績はクラスの中でどのくらいだと思うか」という質問に対する回答をまとめたものによると、子供たちの大半は「ふつうだと思う」か「まあ良い方だと思う」と回答している。一方、「あまりよくない方だと思う」と回答した割合は、小4で約23%、小6で約30%、中3で約45%と、学年が進むにつれて増加しており、中学生になればなるほど自己評価は低いものになっている。

また、自分の学習成績への満足度を見てみると、小4では「満足している」割合が「満足していない」割合を上回っているのに対し、小6と中3ではその割合が逆転している。しかも、中3では満足していない子供の割合が9割近くも存在している。このことから、自分の学習成績への満足度は

小6を境に低下し、中3では不満が急増する傾向にあると言ってよい。

そこで、「学習成績に対する自己評価」と「自分の学習成績への満足度」との関連を図4-2から見てみよう。

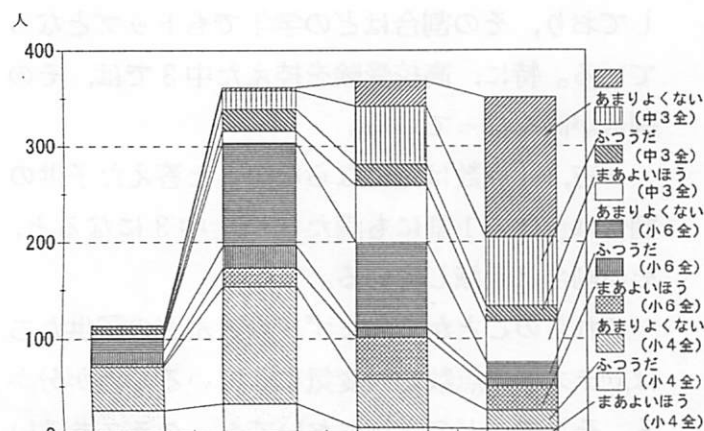


図4-2 学習成績に対する自己評価と満足度

自分の成績が「あまりよくない方だと思う」子供ほど、自分の学習成績に「満足していない」割合が多くなっていることが分かる。

これらのことから、学年が上がるにつれて、自分の学習成績をより厳しい目で見つめるがために、自分の学習成績に不満を抱くものが増えてくると考えられる。

学習するのは今の自分のため

それでは、子供たちは何のために学習をしているのだろうか。

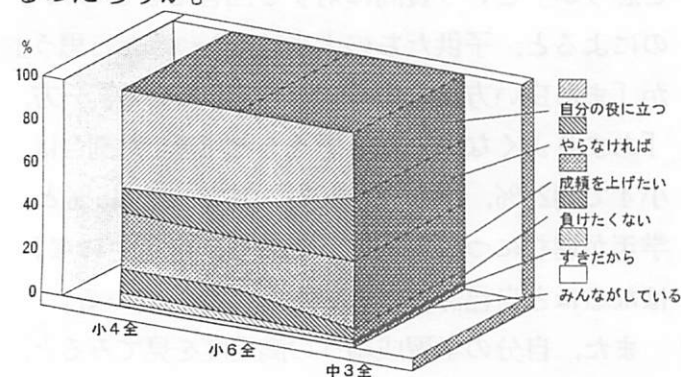


図4-3 勉強をしている理由

図4-3は、勉強している理由に一番近いと思う項目を挙げてもらった結果である。小4と小6では、「将来、自分の役に立つから」と回答した者が4割を超えてトップで、「成績を上げたいか

ら」がそれに続き、二つの学年とも同様な傾向を示している。

これに対して、中3では、上述の二つの理由の他に、「やらなければいけないから」を合わせた三つがほぼ同じ割合で並んでいる。さらに詳しく見てみると、「将来、自分の役に立つから」と「友達に負けたくないから」の割合が減少し、その分「やらなければいけないから」と「成績を上げたいから」の割合が増加している。

これらのことから、小学生では、勉強していれば将来は何とかなるだろうという漠然とした目標のためや、学習成績に反映するテストの点数を上げるために勉強している子供が多いと考えられる。それが、中学生になると、遠い将来のことよりも、まず、高校受験という目の前の目標を達成するために、必要感に迫られて勉強している子供の姿が多く見られるようになる。

もっと勉強したい？

学習塾やけいこ事に追われて、遊ぶ時間も少なくなっている現代の子供たち。その子供たちは、どの程度の時間を家庭での学習に当てているのだろうか。

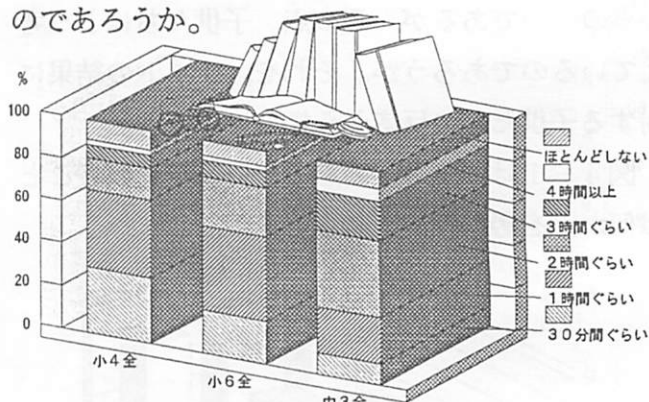


図4-4 学校外での学習時間

塾を含めた家庭での学習時間（以下、学校外学習時間）は、学年が上がるにつれて増加し、中3では2時間以上が6割を超えるようになる。

さらに、就寝時刻の調査結果と合わせて詳しく見てみると、小4は、30分から1時間程度の学校外学習の後、午後9時から10時までの間に就寝し、小6は、1～2時間程度の学校外学習の後、午後

10時から11時までの間に就寝している。これに対し、中3では、学校外学習時間が2～3時間と長く、就寝時刻は午後11時から12時までの間がピークとなっており、夜遅くまで勉強していることがうかがえる。

また、学習塾に通っている子供の割合も、小4で約28%、小6で約44%、中3で約53%というように、学年が上がるにつれて増加している。

では、どのような理由で学習塾に通っているのか、図4-5でみる。

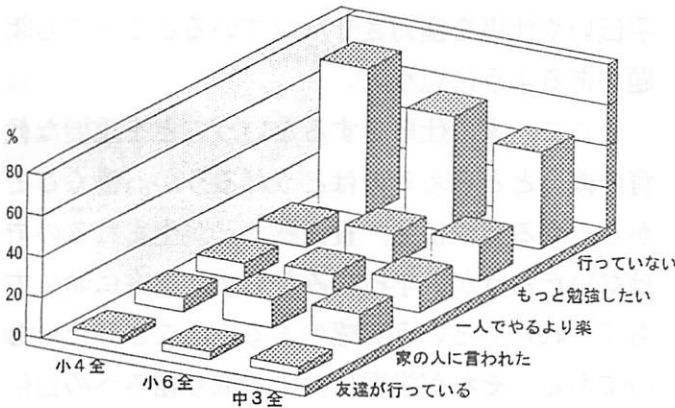


図4-5 学習塾に行っている理由は

まず、「家の人に言われたから」という家庭でのすすめから塾に通っている子供の割合は、小4で約7%、小6で約14%、中3で約15%であった。この割合は、子供の成績を一番気にしていると思われる、教育に熱心な親の存在を考えると意外に少ないように思われる。

これに対し、「もっと勉強したいから」という、積極的な自分の意志が働いている場合が、どの学年でも3割を超え、理由のトップに挙げられている。

また、「友達が行っているので」自分も通っている子供たちや、勉強を「一人でやるより楽だから」学習塾に通っている子供たちも比較的多い。

これらのことから、表面的には、学年が上がるにつれて、自ら勉強の必要性を感じ、主体的な理由で学習塾に通うようになることが推測できよう。しかし、よく考えてみると、「もっと勉強したい」という子供たちの意識の中には、やはり、高校受験のため、必要に迫られて学習塾に通っていると

いう現実があるように思われる。

私の疑問にだれか答えて

図4-6は「“ホタルはなぜ光るのか”という疑問を持った時にどうするか」という質問に対する子供の回答をまとめたものである。

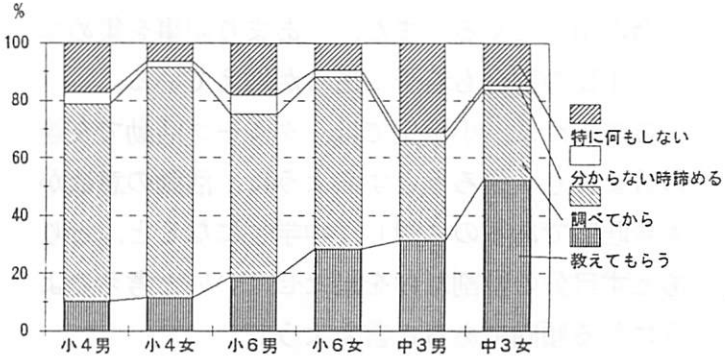


図4-6 疑問をもったときどうするか

それによると、疑問を解決するために、とにかく行動する子供の数が過半数を超えている。中でも小4児童は約88%、小6児童は約86%と、どちらも9割近い数である。

一方、「特に何もしない」と回答した子供は、小4で約12%、小6で約14%、中3で約23%と、学年が上がるにつれて増えている。これを男女別で見ると、どの学年でも男子は女子の2倍の比率になっている。

さらに細かく見ていくと、「まず、誰かに教えてもらう」という子供の割合が、学年が上がるにつれて倍増しており、中3女子に至ってはその割合は5割を超えている。

その一方で、「自分で調べてみよう」というような、まず自分の力で解決しようとする姿がみられるのは小学生に多く、小4女子に至っては8割を占めている。このことは、逆に言えば、学年が上がるにつれて、疑問が生じた時の自力解決の意欲が減退していくことを物語っている。

上述のような学年間にみられる傾向は、次に述べる学習への取り組みについての調査結果にも表れている。

学習への取り組みの中での役割と責任感について、「グループの新聞を作るために記事を集める

ことになった。でも、みんなはあまり集めない。あなたならどうするか。」という質問を設定した。

その回答結果を見てみると、小4と小6ではその傾向に大差はないが、中3の場合は「自分でたくさんの記事を集める」という割合が減少し、その分「自分が書く記事の分だけを集める」という割合が増えてくる。また、「あまり記事を集めない」生徒の割合も若干であるが増えている。

このように、小学生では、グループ活動で友達の分までも頑張ろうとするように、活動の意欲が大変旺盛であるのに対し、中学生になると、とりあえず自分の役割だけを果たせばいいと考えるようになる傾向にあると言える。

以上が調査の結果であるが、今日の問題として、子供から学習に対する意欲が失われつつあること、何のために学習するのか、学習の目的を子供がつかめず、その結果、主体的学習が展開されにくくなっていることなどが挙げられよう。

この調査結果には、現代の子供たちが、学年が上がるにつれて、学習成績に対する自己評価が厳しくなり、不満が高まるとともに、はやく何とかしたいと願っている様子がはっきり示されていると言ってもよいのではないだろうか。

■ (3) 提 言

学び方を学ばせる教育を

これからの社会に生きる子供たちにとって、今、重要なことは、学び方を学ぶことである。生涯学習ということがいわれているが、そのためには、義務教育の在学中に、「学び方」の方法や態度等をしっかりと身に付けておくことが大切である。学校は、学ぶことの楽しさを通じて、生涯にわたって学び続けることのできるエネルギーを蓄える場であってほしい。このことを踏まえると、教師は、日常の学習活動を通して学び方を学ぶ方法が子供たちに身に付いていくように、絶えず工夫し

て指導に当たっていく必要があるだろう。

やる気と根気を生み出させる生活を

現代の子供は、大変明るくて屈託がなく、思ったことははっきり言えると同時に、物事に対して受動的でやる気がない、興味や関心が長続きしないということも指摘されている。

この背景には、テストの点数だけで順番を付け、子供の値打ちを決めてしまうような風潮があると思われる。子供の成績を上げるために、親が家の手伝いや仕事を極力させないでいるところにも問題があるように思う。

そこで、家の仕事をするということを重要な教育の機会ととらえるのはどうだろうか。働くことから、やる気や根気、責任感などが生まれるのではないだろうか。学校のみならず、家庭においても「やれた」という実感のある生活をさせたいものである。それが学習に対する取り組みへの自信にもつながることになるだろう。

自己の生き方を考えさせる指導を

現代の中学生は、勉強や自分の進路、将来についての悩みが多いといわれている。この背景には、学歴社会といわれるような、わが国の学歴偏重の社会的状況が存在しているからと考えられる。受験戦争の下で、競争に勝ち抜くために、少しでも良い成績を上げることが現代の子供にとっての最大の目標になっていると言っても過言ではない。そして、勉強の成果が本来の生きる力と結び付かないままに、「人間は勉強が大事だ」と考えてしまうのである。

そこで、学校においては、自己の生き方を考えさせることのできるような指導の在り方が重要な課題となってくるであろう。また、家庭においても、親が親自身の生活体験を自分の子供に示し、生きるということについて共に語り合うことができれば、将来の生き方を考えさせる上で大きな役割を果たすことができるはずである。

■ 5 心の奥をのぞいてみると

■ (1) 設問のねらい

これまで、子供たちの意識を「遊び」「友達」「健康」「学習」の観点で見てきた。本節では、それらも関連させながら、子供たち自身が描く「自己像」について考えてみる。

日常生活における心のありようは、子供たちの生活意識や行動を大きく左右するものである。そこで、身近な人々とのかかわりで、子供たちの心の安定はどのようなになっているか探ってみる。

次に、子供たちの日常的な行動や活動意欲にかかわる考え方を探る。そこには、子供たちが考えている自己像や自分の将来像が投影されると考えられるからである。子供たちの自己像を明らかにすることは、大人が日々接している子供たちのよき理解者であり続ける上でも必要なことである。

■ (2) 調査の結果

大切にされていると感じている子供たち

子供たちの心の安定を、生活の基盤をなす家族とのかかわりで見たのが図5-1である。

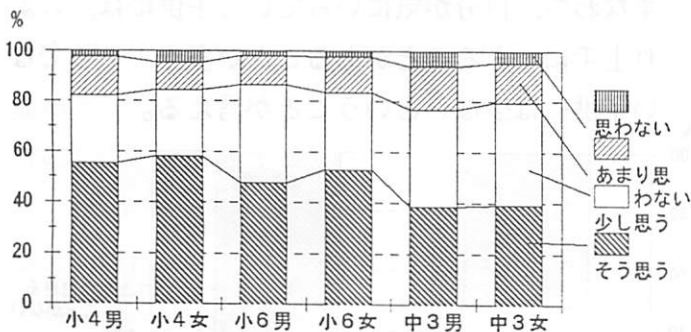


図5-1 家族から大切にされている

家族から大切にされているという意識は、「そう思う」「少し思う」を含めると、性差、学年を問わず8割か、それに近い割合を示している。中3では「そう思う」という割合がやや減少しているが、これは発達段階における「自立」という意識を考慮すれば、自然な結果と言える。この結果

から、子供たちは家族から温かく包まれているという感情と安定感を得ていることがうかがえる。

信頼できる人がいると感じている子供たち

次の2つの図を見比べると、「友達から頼りにされている」と感じている子供と、そうでない子供の割合は後者がやや多いくらいであるが、「本当の気持ちを話せる人がいる」と多少なりとも感じている子供は、6～7割になる。

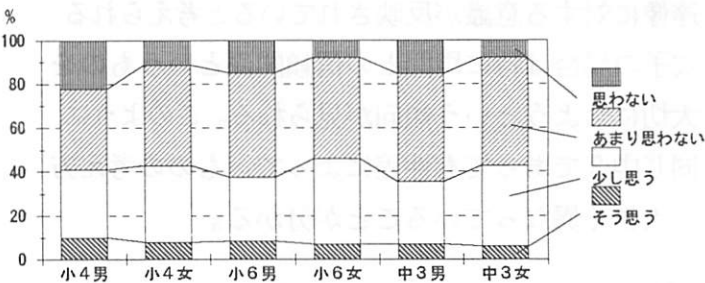


図5-2 友達から頼りにされている

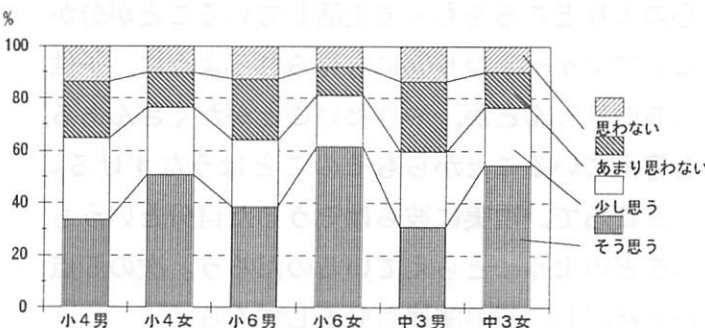


図5-3 本当の気持ちを話せる人がいる

このことから、自分の意識として、それほど友達から頼りにされているわけではないが、自分自身の気持ちを話せる人はいるということであろう。次に、健康についての意見を見ると、「体はじょうぶだ」と考えている子供は8割ほどいる。なお、この健康意識については学年差、性差はほとんど見られなかった。

これらの結果からすると、大部分の子供たちは心身ともに安定した生活を送っていると感じていると言える。

でも、こんなことにも配慮して

ここまで、子供たちの心の安定について見てき

たが、どの調査項目でも1～2割の子供たちがマイナスイメージを持っていることが分かる。

「家族から大切にされている」という意識に性差があり、女子の方がより「大切にされている」と考える子供が多い。また、「本当の気持ちを話せる人がある」については、「家族から大切にされている」と比べて、さらに性差が大きくなる。

これらのことは、「友達」や「遊び」の章での指摘にもあったように、付き合い方の違いや、友達像に対する意識が反映されていると考えられる。女子の場合は特に周囲との信頼関係というものを大切にしようという傾向が見られる。このように、同じ中3であっても性差によって、ものの考え方が大きく異なっていることが分かる。

やりたいことはいっぱいあるんだ

多くの子供たちは程度の差こそあれ、それぞれ心のよりどころをもって生活していることが分かる。アンケートQ6⑤にも見られるように、子供たちのほとんどが、やりたいことがたくさんあると答えていることからそのことはうなずける。

ところで、現実には彼らはそうした自分というものをどのようにとらえているのだろうか。次の5点から検討し、その関連も分析してみる。

一つ目は「おしゃれが気になるか」である。これは、子供の自己主張につながる意識と考えられる。調査の結果、全体として、おしゃれが気になる割合は、男女とも上の学年の方が多く、中3では、6割強となる。そして、男子より女子の方が早く気になりだす傾向がみられる。

二つ目は、「自分が気に入っているか」である。これは、自分への期待や満足感に、どれだけ近づいているかの度合いであるとすることもできる。ところが、全体的に「自分をあまり気に入らない」としている割合が多く、小4でも5割弱、中3では7割に達する。また、女子にその傾向が強い。

三つ目は「人より上手にできることがあるか」である。各学年とも「ある」と考える子供が多い。

また、上の学年になると、「ある」と考える者は、徐々に減ってくる傾向にある。

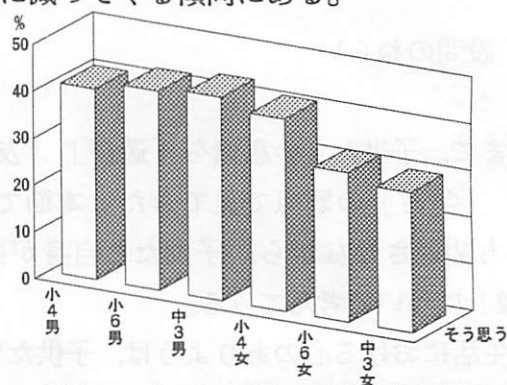


図5-4 人より上手にできることがある

しかし、性差で見ると、図5-4から分かるように、「思う」の人数は男子は増え、女子は減る傾向にある。これは、他の要因とは違った傾向で、女子は、自分に対する見方が厳しくなっているとも考えられる。この厳しい見方は、自己をどうとらえ、それをもとにどのような考え方をもち、どのような行動に結び付けていくかに、大きな影響を与えている。

次に、「自分のことが気に入っている」と「人より上手にできることがある」との関連を見る。図5-5によれば「気に入っている」傾向の集団では「人より上手にできることがある」と「ない」子供の割合がおおよそ半々だが、「気に入らない」傾向の集団では、明らかに「ある」子供が少ない。すなわち、自分が気に入っている子供には、人より上手にできることがあることが多く、そうでない子供には少ないということが言える。

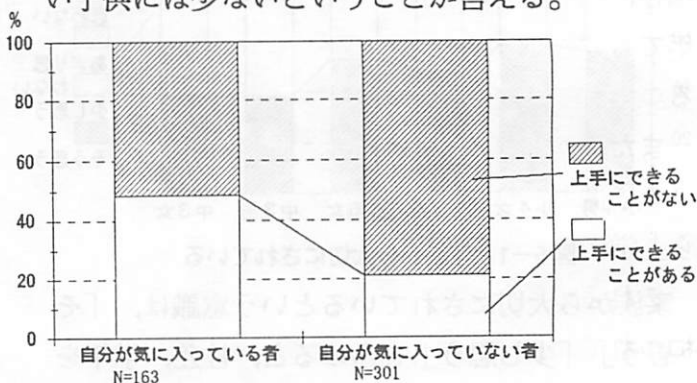


図5-5 気に入っていると上手にできる

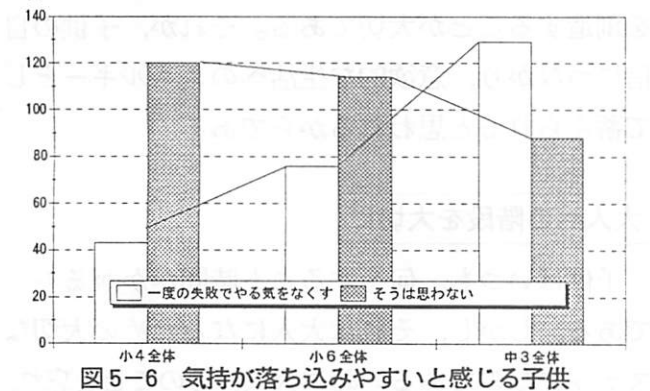
「人より上手にできることがある」ということは、子供の自信につながる安定要因と言えるのではないだろうか。

四つ目は「一度の失敗でやる気がなくなるか」という設問であるが、これは子供自身の意欲や自信と大きな関係があると考えられる。

全体では「やる気がなくなる」傾向の子供はそれほど多くはないが、中3男子では4割、中3女子は5割に達し、その傾向が強い。

五つ目は「気持ちが落ちこみやすいか」である。これも自信にかかわるが、全体としては「落ちこみやすい」が半分弱であり、中3では、男子5割、女子6割とその傾向が強いことが分かる。

さて、ここで「一度の失敗でやる気がなくなる」と「気持ちが落ちこみやすい」の関連を見てみる。



「気持ちが落ちこみやすい」傾向の集団では「一度の失敗でやる気をなくす」子供が増加していることが読み取れる。これは子供の不安定要因と考えることができる。その他、互いに関連している要因をまとめると図5-7のようになる。

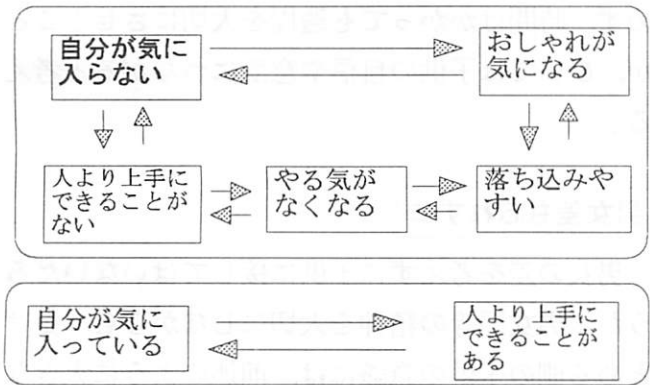


図5-7 安定要因と不安定要因との関連

子供の意識の中では、安定要因同士・不安定要因同士は、それぞれ関連をもつ傾向があり、互いに影響を与えている。男子は自分に自信をもち、「自分を気に入らない」が少ない傾向にある。そ

のことが、男子の活動意欲の源になっているものと思われる。それに対して女子は、上の学年になると、人より上手にできないと考えることが多くなり、自分を気にいらなくなる傾向にある。さらにやる気をなくしやすく、気持ちの落ちこみも強くなる。

そこで、学年差・性差を考慮した支援の在り方を考えていくことが大切になってくる。

こんな大人になりたいんだ

それでは子供たちの描く未来とはどのようなものなのだろうか。調査の結果、進路や職業を選ぶとき、彼らは自分の希望や適性を重視することが分かった。上の学年ではその傾向が強く見られ、子供自身の主体性が増していく様子が感じられる。

そんな子供たちが目指す大人像は、図5-8のように、大きく二つに分かれる。

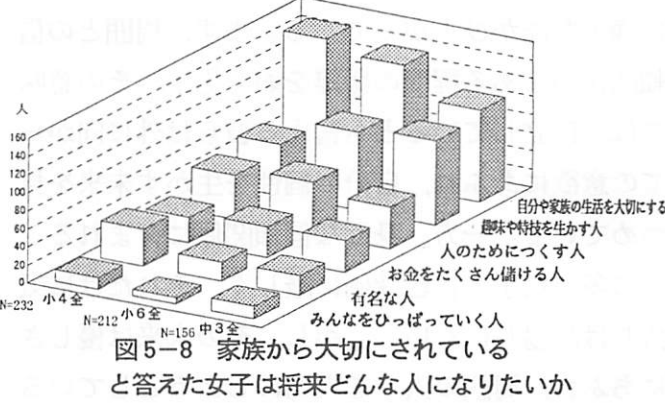


図5-8 家族から大切にされていると答えた女子は将来どんな人になりたいか

ここに子供たちが選ぼうとしている将来の方向が見える。子供たちは自分や自分を含めた身近な人々とのかかわりを大切にする方向から、緩やかに趣味や特技を生かそうという方向に変わっていている。

このことを考察するには二つのことを考えなければならない。一つには女子が選択した将来なりたい大人像で最も多いのが、すべての学年で、「自分や家族の生活を大切にする人」であることに注目すべきであろう。すなわち、身近な人との信頼関係を保とうとする女子は「その信頼にこたえよう」という意識が高い。

もっと詳しく検討するために、もう一つの分析

を試みる。それは、「家族から大切にされている」と考える子供だけに限ってみた場合にもその傾向が成り立つかである。ここでも「趣味・特技」が、上の学年では増加している傾向にあるが、最も多いのはどの調査学年でも、「生活を大切にする」である。つまり、「家族から大切にされている」と考える集団は「将来、自分や家族の生活を大切にしたい」と考える傾向が強いといえる。逆に「家族から大切にされていない」と考える集団で同じ分析をすると、いずれの学年でも「趣味・特技」が最も多く、中3では「趣味・特技」「生活」とともに、「お金儲け」や「人のため」などに分散する結果になった。すなわち全体として、「趣味・特技」が増加傾向にあるということは、子供たちの意識の中に、家族とのきずなが薄くなりつつあることを意味しているのではないだろうか。

このように見てくると、現代に生きる子供たちの様子が浮かび上がってくる。まず、周囲との信頼関係からある程度の距離をおく男子。その意味では、自立しているとも言える彼らは外に向かっての意欲にあふれ、自分の個性を生かす未来を見つめている。一方、身近な信頼関係に育まれることの多い女子。自己評価に厳しく、それだけに気持ちは高揚しにくい。しかし、その未来は優しさにあふれ、周囲の人々を大切にしようとしていることが分かる。

■ (3) 提 言

親子関係の重要性

子供が家族に求めているものの中に、「自分が大切にされている」という意識がある。友達から信頼されていると感じる意識があまり高くない現実では、家族が信頼することはきわめて重要なことと考えられる。子供が「大切にされているなあ」と感じる家族の接し方を工夫することが必要ではないだろうか。そこには表面的ではない信頼感が求められる。

また、子供に対する期待は必ずしも子供を大切にすることに直結してはいない。ともすれば自信を失いがちな現代の子供たちは、「頑張れ」という励ましばかりでなく、安らぎの声を掛けられることで、大切にされているとの温かい思いに満たされるのではないだろうか。

意欲と個性を生かす学校

学校では、個を生かした教育の一層の推進を図ることが求められる。子供一人一人に、自分が上手にできることや興味を持って取り組めることを見つけさせることができる、ゆとりある学校生活を創造することが大切である。それが、子供の自信につながり、意欲的な生活へのエネルギーとして蓄えられると思われるからである。

大人への階段を大切に

子供はいつも、何をするにも時間がかかるものである。しかし、それは大人になるための大切なステップなのである。時に大人はそのことを忘れ、自分のペースで考え、口をはさんだり、手を出したりしがちである。また、先回りして与えることすらある。子供の時代には、そのときしか体験できないことがたくさんある。それを大人が取り上げないことが大切である。物事の結果を性急に求めず、時間はかかっても過程を大切にさせることが、ひいては子供の自信や意欲につながると考える。

男女差も忘れずに

男女の差を考えずに子供に接してはいないだろうか。男女平等の精神を大切にしながらも、受けとめる側の子供の意識には、前述のように大きな男女差があることを忘れてはならない。

もちろん、単に男女ばかりでなく、一人一人の個性を踏まえながら接する必要がある。それこそが、私たち大人が、子供と真剣に向き合うことにつながるのではないだろうか。

V 提 言

座 談 会

「これからの望ましい教育の方向を探る」

〔 出 席 者 〕

宮城教育大学教授

雪 江 美 久

宮城県社会教育委員

櫻 井 恵 美 子

仙台市立八乙女中学校教頭

阿 部 芳 吉

仙台市立第一中学校教諭

相 澤 成 信

仙台市立若林小学校教諭

河 原 本 美 智 也

仙台市教育センター指導主事

〔司会〕

大 野 榮 夫

〔 敬 称 略 〕

大野 本日はご多用なところご出席いただきましてありがとうございます。調査結果をご覧になって、現在の仙台市の子供の姿をどのようにお感じになりましたか。この調査研究に直接携わった河原木先生と相澤先生からお願いします。

見えてきた子供たちの本当の姿

河原木 私は「学習」を担当したのですが、小学生と中学生の学習に対する取り組みが大分異なることが分かりました。小学生には、学習に積極的に取り組む姿が見られるのですが、中学生には、受験を目前にしているので、とりあえず、今自分の置かれた立場で精いっぱい頑張ろうとしている姿を感じました。また、何のために今勉強しているかをつかめないで、生活しているところもあるようです。

テレビゲームなどメカ的なものに子供たちの関心が高く、操作する力はかなり向上しています。しかし、本当の意味の情報活用能力を、自分のものとして身に付けているかという点では、疑問だと思っています。

相澤 今回の調査で意外に思ったのは、室内でファミコンをしたり漫画を読んだりしているのは、外で遊ぶのが飽きたからではなく、精神的なゆとりを求めているということでした。これは本来の遊びとは異なるもののように思えます。中学生にとって、遊びは日常生活の忙しさを補償するものになっているようです。

友達との付き合い方ですが、信用できる友達をだんだんと求めている反面、互いに深入りしないという傾向が見られました。学年が上がるにつれて、煩わしさを感じてきているのでしょうか。それでいて、自分が頼れるものを求めている。特に中学3年女子にはその傾向がありました。私たちの子供のころと違う面が出ているのではないかと思います。

学習では、自ら学ぼうとはしていますが、現実には受験にかかわる勉強が、必ずしもそれに合致

していないので、ギャップが生じているのではないかと思います。自力解決の姿勢を育てるのは、なかなか難しいですね。

普段、我々教師は、「自己を気に入っているか」「得意なことがあるか」などと「挫折感」との関連を意識して子供を見ているかというところではなく、意外とおろそかにしているのではないかと感じました。今回の調査研究で、子供たちの本当の姿を、大分浮き彫りにすることができたように思います。

昔と変わらない子供たち？

櫻井 本質的に、現在の子供たちは昔とあまり変わらないと思いました。私の子供時代にも、女の子は家で遊ぶことが多かったからです。お手玉、おはじき、人形ごっこなどで、外で遊ぶことはほとんどしなかったように記憶しています。外での遊びも、庭でまりつきをする程度で、ほとんどは学校でたっぷりと遊んで帰ったことが思い出されます。

今は、ファミコンなどにみられるように、遊びが機械化されて子供たちがメカに強くなりましたね。しかし、女の子は、今も流行の人形などを使った遊びを好んでしているので、遊び道具が変わっているだけで昔も今もあまり変化がないように思いました。

求める友達像も昔と全く変わりなく、信頼のおける方と付き合ったり、みんなによく思われたいために、自分を殺してまでも友達に合わせたりするとかは同じではないでしょうか。

学習だけは多少違った印象があります。昔も受験はありまして、学校で居残り勉強をさせてくださって特訓していただきました。受験地獄とは違って、ある心地よさを感じてやっていたように思います。それを乗り越えることに喜びをもっている子供もいるということもあると思うのです。受験に向かわせる親や先生方の言葉や態度が、子供を明るくするか暗くするかだと思うのです。

健康のところでは思ったことは、精神的に満たされる場合は、疲れを感じさせないものではないでしょうか。自分のやりたいことに対しては、少しも疲れた感じがしないものです。今は、与えられる時代になったので、自分から求めたものでないものについては、精神的なギャップが埋められないでいるのかなあとと思います。

小学生からダイエットをするということは、自分にかっこよさを求めているのでしょうか。親がやってくれていたことを、自分でコントロールする時代になったのかという感じがしました。

子供は時代や生育環境を映し出す鏡

阿部 調査結果全体を見て感じたことは、子供たちは、両親、地域の人々、そして我々教師の影響が非常にあるということです。社会の変化にもなって、人間も大きく変わってきたと言えるのではないのでしょうか。しかし、その時代なりに良い方向を見つけて、人生を楽しく生きなければならぬのではないかと思います。

今の子供たちは、ジュースとかスナック菓子とかを多く食べるといわれていますね。矯正施設等に入っている子供たちは、以前にジュースやスナック菓子をよく飲んだり食べたりしていたということがあります。そこで気がかりなことは、親が手作りのおやつをどのくらい与えているかということです。あるデータによると、かなり少なく、50人に1人ぐらいなんだそうです。このように育てられた子供は、自分の健康をどのように考えているんだろうかと心配です。

遊びに、目的なんかはいらないですね。自由に遊べばいいんですよ。ただ、気がかりなのは、工夫した遊びが減ってきているのではないかと思います。遊びに子供らしい工夫があればいいのではないかと思います。

雪江 工夫した遊びが少ないという指摘がありました。工夫する必要がない、ある種の豊かさや便利さが、今子供たちをおおっているんですね。

子供たちが、工夫しなくても楽しめる物がたくさん商品化されています。切実さがあってこそ、創造力が出てくると思うんですが、切実さを感じた時に、子供が一步踏み出せる状況にあるかどうかなんですね。踏み出さなくても済まされる状況、例えば親の妙な配慮だとか、金さえ出せばいくらでも手に入るだとかで、子供の切実さと創造力が分断されてしまっているのではないかと思います。

遊びは自由であり、時間なり空間なりをどう使うかは勝手にいいと思うんです。遊びは、拘束条件から解放されたものであり、それをどう豊かに使うかは、子供自身の能力になりますね。

与えられている遊びの選択肢が現代的に規定されていますから、そういう中で子供たちは精いっぱいを選択をしていると思います。けれども、世代の違う我々から見れば、今の子供たちの遊びは貧困だという言い方になるのです。子供たちは、そんなことは眼中にありません。当然与えられた条件の中で、遊んでいるわけです。寒い日に外に出てたこ上げるよりも、暖房のきいた部屋でファミコンをやったほうがずっと面白いと思っている。そのほうが彼らの欲求をずっとくすぐっているんだと思います。

ただ、それが優先している中で何が失われ、何が育っているのかをきちんととらえていくことが大切だと思います。その中で、そういう遊びもいけれど、こんな遊びだって大事なんだということを、子供たちに実感をもって、説得力をもって伝えるのはよほど何かがないと難しい。そこが大きな問題だと思っています。

櫻井 自分たちの育った時代の遊びの内容が違って、遊びの指導ができなくなった人が、子供の遊びが大きく変わったと感じているのではないのでしょうか。

阿部 それから、異年齢集団による遊びが大分減ってきています。そのことは、学校現場においても心配してしまっていて、たてわり活動などに積極的に取り組んでいる学校が多いですね。

地域の色々な人々と触れ合っていた時代があったわけですが、現在は、その人間関係が希薄になってしまいましたね。そのことが良いことなのか、悪いことなのかは別問題なわけですが、その良いところを残すことが大切ではないかと思っています。

雪江 全体として感じたことの一点目は、いつの時代でも、子供たちは置かれている状況を非常に素直に映し出しているということでした。ただ、今の子供たちがちょっと違うとすれば、遊びの選択肢が、昔と今では変わってきているという点ではないかと思っています。遊ぶ心には、そんなに大きな違いはないじゃないかと思うんです。

二点目は、子供たちの置かれている状況を私たち大人はもっと考えていかなければいけないと思ったことです。子供たちは、点数を大変気にしているのではなく、気にせざるを得ない状況に追い込まれているのです。子供たちが置かれている状況をみつめながら、このデータを子供たちの立場に立って優しく読んでいくことが大変重要ではないかと思っています。

三点目は、生まれ育った、あるいは今育っている生育環境に支配されているということです。そういった意味で、体験のもつ教育力の重要性を再認識させられました。

四点目は、自己責任能力の弱さが目立っているということです。これは、子供自身に責任があるのではなくて、子供の生活環境のもつ自己責任能力の形成力が、弱くなっているといったところに問題があるように思います。

子供たちの生活をトータルでとらえる必要がありますね。とすると、学校、家庭、地域の教育力が、これからの教育の問題を考えていく上で問題になるだろうと思います。

大野 それでは次に、これから教育の方向はどうあればよいかについて、お考えになっていることを具体的にお話しいただきたいと思います。

子供を信用し温かく見守る

櫻井 雪江先生が挙げられた自己責任ということ思い出したのですが、大勢集まっている場所で、自分の子供が騒いでいる時、ある母親が、子供が自己表現しているのだからということで放任している場をよく見かけます。この場合、人に迷惑をかけないようにさせることこそが、その子にとって大切だと思うのです。母親は、自分の子供を王子様に仕立てないように戒めたいものです。

次に、外国の例を出しますと、子供が目的をしっかりもっていれば、自分の責任において自由に組みさせる親の心の大きさがあるように思います。お母さん方が偉いんだなと感じます。子供を過保護にしている日本では、お母さん方が目覚めないと教育のひずみなどは、解決できないように思います。

また、子供が悪い成績をもってくると、「先生の教え方が悪いんじゃないか」などと子供の責任にしないで、安易に学校や担任に責任をなすりつけることが多いですね。母親は、教育に対してもうちょっと違う面でかかわる必要があると思います。また、そのような母親を制し、指導できる先生方を、みんなで支援していかなければならないと思っています。

親や教師には、子供が決めることを信用する、温かく受けとめてやる姿勢が求められると思います。先生方も、色々な情報に惑わされないで、しっかりした考えで指導していただき、「学校のことは任せてください」「家のことはどうぞしっかりやってください」と堂々と言っていただきたいと思います。保護者のなかにも、先生を信頼してお任せしている人もいることを分かっていたいただきたいと思います。これからは、学校教育と家庭教育との連携がますます問われる時代になると思います。

生活化した異年齢集団で 生き方を学ばせる



阿部 昔は、がき大将がいてそこに何人かのとりまきがいて遊び集団を構成していましたよね。一番下の子供がころんで泣いた時などに、年上の子供が優しく手を差し伸べてくれたなど、遊びを通じて、生き方みたいなものを学べたように思います。そういう意味で、やはり異年齢集団での子供の遊びは必要だと思っています。

親が、異年齢集団での活動を意図的に与えるというのは、かなり難しいことだと思います。我々教員であっても、地域とのかかわりが薄くなっていますからね。学校の教員を、地域の中でボランティア活動ができるように育成することも大切なことではないでしょうか。

地域の活動をするにしても、子供たちだけにやれやれと言うのではなく、大人同士の連携がなければ、子供に恥ずかしいと思います。また、地域での親の生き方を大人自身が見つめ直さないと、子供を地域で遊ばせようとしても難しいのではないのでしょうか。

大野 多くの学校で、たてわり活動に取り組んでいます。その成果はどうなんでしょうか。

河原木 子供たちは、学校だけのたてわり活動という意識が強いですね。それを地域にまでもって行って活動しようとする考えまではいっていません。しかし、そのなかで、6年生は1年生の世話をよくしますし、世話の仕方も身に付いてきていることは言えると思います。でも、身に付けたものを地域で生かすというところまでは至っていないというところですね。

相澤 中学校で、日常的なたてわりの活動というと、部活動ぐらいです。地域と結び付いたたてわり活動というと、地区生徒会などの奉仕作業が

あります。今でもやっている学校は多いのではないのでしょうか。夏休み前に、神社や集会所付近の清掃作業なんかをよくやりますね。地域の連帯とまではいかないけれど、学級や部活動の時とはちょっと違う何か温かいつながりのようなものを感じます。ただ、こうした行事もだんだん少なくなりつつあるのではないのでしょうか。

大野 たてわり活動が、イベント主義で一回限りの集団で実施されてはいないのでしょうか。私は、集団が生活化していないところに問題があるのではないかと感じています。

人間関係の多様化を体験的に学ばせる

雪江 小此木先生が言っているのですが、人間関係というのは二者の関係なのに、今の子供たちは、1.5の関係しか作れないと。自分の意志を機械にインプットすれば、それなりの反応が出てきます。相手の気持ちなんか全く無関係に、自分の反応だけで一方的に理解していく。だから、そういう関係の中で人間関係的なものが学ばれていくと、自分の反応にうまくこたえてくれる関係には、柔軟に対応していくけれども、少しでも気まぐずになるとそこから逃げてしまうということになる。本当にそういう面があると思うんですね。少しぐらいがまんしても、相手の気持ちを聞いてあげようとか自分の気持ちを少し押さえても仲間とのことだから一緒にやっ払いこうとか、そうすることがなくて、ちょっとはずれてしまう。そういうことが煩わしいことになるのです。そのことが、見事に調査結果に出ていると思います。気軽な関係というところに。

これは子供たちが悪いのではなく、やっぱりそのように育てられてきているんだろうと思います。そういう点では、多様なモデルを彼らに与えて、それだけではない、こういうこともあるんだということを体験的に学ばせていくことが重要で、やや仕掛け的な部分があっても僕は与えていくべきであろうと思います。

それには、できるだけ子供たちを主人公にさせていく場面をもっともっと作っていくべきではないかと思っています。学校でのたてわりの活動は、もっぱら行事主義というかイベント主義に陥ってしまいがちで、それが生活化されないようですね。

そういう点で、異年齢集団の活動のねらいを生かす学校生活を、トータルに作っていく必要があるだろうと思います。また、地域での活動にたてわりの精神を生かす行事を作り、むしろ、学校ではもうたてわり活動をやめて、全部地域に任せるぐらいのことも考えてみてはと思います。

極端な話かもしれませんが、学校では運動会を止めて、地域で運動会をしようという例があります。学校の活動に地域や父兄が参加するのではなく、地域のイベントに学校が参加するという形でやってみるなど、地域と学校とのかかわりを考えていくことが大切になってくるでしょう。

かつての日本には、地域の教育力は豊かにあったのです。いい面、悪い面の両面がありました。戦後、高度経済成長とともにそれが壊れて、もっぱら学校が全部引き受けてきたんですね。それではいけないと気付いて、再び地域に返そうとしている。したがって、過渡期としては学校が手を貸さなくてはいけません。手を貸しながら地域の子供たちの生活のなかに、たてわり集団の目的が達成できるような何かを作っていくというのが、これからの大きな問題になるのではないのでしょうか。

異年齢集団というのは、言い換えれば、人間関係の多様化を子供たちに体験的に学ばせていく中で、本当の意味で人間的自然さを取り戻していくことではないかなと思います。

年上から優しさの発揮を

櫻井 遊びというのは、大人にとっては遊び



の心を知った上でのものなのでしょうが、子供には、学ぶことも遊ぶことも、すべて生活そのものなので、束縛されずに楽しんでやっていることがすべて遊びなのではないで

しょうか。大人は子供に遊びの定義付けをするのではなく、成長の一時期と思って見守るゆとりをもっていたいものです。

お友達をつくるということも、今は母親が友達を選ぶ時代になっていますね。「あの家は、どうだろう」「あの子と遊ぶとこんなことをするか、付き合いを止めたほうがよい」などと、親が言うんですよ。非常に悲しいことだと思います。やっぱり親は子供を信頼してほしいと思います。

雪江先生がおっしゃいましたが、日本国中、何か優しさということに欠けていると思うんですね。部活動で目上の人に対するあいさつを知らないというの、いつも下から上への働きかけしかないということなんですね。わたしが今つくづく思うのは、「本当に良かったね。苦しかったね」と、同調してあげられる一つでも二つでも年上の人がいらないということが、子供たちにとって不幸なんじゃないかなと思うんです。私はむしろ、「年上から年下に声をかけましょう」と指導すべきだと思います。相手が知らない時に、教えてあげるのが異年齢集団活動の第一歩だと思います。一声かける優しさがあれば、もっと素直に、楽しく生活できるでしょう。

年上が優しさを発揮するとともに、何でもかんでも比較するということを排除したら、世の中は平和になってストレスも少なくなるのではないのでしょうか。

ボランティアの真の意味の理解を

相澤 私は高校生の時、ジュニアリーダーを経験しました。地域の公民館をベースに活動していたんですが、わずか3年間なんだけれども、地域がどんどん変化していったって、最初の1、2年の間は、イベントをしても地域の人たちは非常に応援してくれるし、いっぱい集まってくれました。3年目くらいになると、やり方を工夫してもだんだん集まらなくなっていました。後半は何かむなしい思いがしましたね。生徒がジュニアリーダーとかインリーダー研修会に参加して研修をつんで一生懸命やろうとしても、人が集まらなくて、やろうとした本人がつらくなってしまう状況が多くあるのではないかと思います。現代は、その辺が一つの限界となっているんじゃないかと思います。

雪江 ジュニアリーダーというのは、現実はどう活動しているかが大切で、あのような精神がまさに現代版がき大将を地域で作っていることになるんでしょうね。ジュニアリーダーの養成は、異年齢集団を形成していくためのリーダーシップを発揮していく生徒をつくっていることになります。

大野 最近、特にボランティア活動の推進が強く求められていますが、調査結果から見ると、特に中学3年生のなかには、そのような意識がほとんど育っていないということが分かりました。このことについてどう思われますか。

櫻井 娘をアメリカの学校に留学させた時に知ったのですが、向こうでは調査書のトップにこれまでやったボランティア活動を記入する欄があるそうです。

アメリカやヨーロッパでは、ボランティアをすることは、人より余計愛情をもらうというように理解しているんですね。日本では、ボランティアを「ただ」という言葉で置き換えられてしましますが、人に何かしてさしあげることによって、自分が目に見えないたくさんのものをいただくという意味があることを、子供に教育しなければなら

ないと思います。

本当の楽しさ・喜びが味わえる学校に

雪江 学校は楽しいところでなければならない。先生方も楽しい職場でないとね。先生方が目だけらんと輝かせ、後ろ姿が何とも寂しいのでは困りますね。

楽しさというのは、決して子供たちの言うとおりにということではないのです。むしろぐいぐいリードしていっても、子供たちは「あっ、そうか」と発見して、苦しみの中に喜びを感じて、本当の楽しさを感じるものだと思うんです。新鮮で強烈な新しい出会いを作っていくことで、本当の意味で人間の賢さ、生きる技を発見させていく、そのような面白さ、楽しさを学校がつくり出していくことが大切だと思います。

櫻井 今の先生方には、制約やノルマが多すぎるのではないですか。私自身の受けた教育や私の子供たちが受けた教育では、先生方のオリジナリティが活かされて、そのクラス、クラスによっていろんな味があって、先生のすばらしさを受けついでこれた子供たちは幸せだったと思います。

今の先生方にもオリジナルでクリエイティブな取り組み方をしていただければと思います。そして、先生方も学校に元気よく出てきていただかなければと思います。

大野 今、新しい学力観に立った教育の推進のため、色々な指導資料が出ていますが、その文章の中に出てくる「児童・生徒」の字句を「教師」と入れ替えて読んでみると、今求められている教師像が見えてくるのではないかと私は考えています。そのような教師に私たち自身が脱皮していかないと、子供にとって楽しい学校をつくっていけないのではないかと思います。また、子供が楽しさを味わうということは、甘やかされることなく、本気になって自分たちのためにぶつかってくる教師の情熱と人間性に触れた時だろうと思うのです。

義務教育9年間で、毎年のように担任替えがありますが、それは子供にとってみれば、いろいろな人格の教師と出会うことに大きな意義があると思うのです。したがって、私たち教師一人一人には、精一杯自分の個性を発揮して出会った子供たちに立ち向かう義務のようなものがあるのではないのでしょうか。

櫻井 昔は、先生が喜んでくださるからという言葉があったんですよ。最近はどうでしょう。これができると先生が喜んでくださるからということで、頑張る子供が少なくなっていますね。そういう言葉が子供の口から消えたということは、ちょっと残念だなあと感じています。

雪江 子供の発達段階によって違うかもしれませんが、人間が賢くなっていくということは、絶対にうれしいことなんです。未知なる世界との出会いから始まって、知的な冒険・探検を、教師がどう仕組み、子供たちにどう主体的に取り組ませるか、そのあたりが大切だと思います。

お母さんたちは、小さい子供を育てるうちは理想のお母さんで、「この子の思うがままの生き方をさせたい」と言いながら、子供が中学に入ると「そうは言っていられない」と変わってしまうのが普通です。

相澤 小学生段階でもっていた意欲や創意を、 中学校ではカリキュラムや学校行事などで発揮させるような場を工夫していくことが大切だと思います。学校行事は毎年こうしているからということで、安易に前年度踏襲にならないように努めていくことが必要だと思います。子供たちのクリエイティブなものを失わせないで、受験にも頑張らせることは可能だと思います。

情報化社会だからこそ

子供らしさを確保する条件づくりを

雪江 私たちの子供時代と比べると、今は、高度な情報化社会になっています。そのために、学校教育の中での知的探検の場は、子供たちの実際の生活に比較すると、遅れてしまうというか、ずれが出てきているんです。もっと面白い何かが、子供たちの回りにはあるわけで、そのあたりを学校教育はおさえていかないといけないわけですね。正論でやっていただければ、子供たちはそこに魅力を全然感じませんね。

この報告書の最後の方で指摘している大人への段階を大切にということは、とても大事なことだと思います。私の言葉で言うと、かけがえのない子供の時代、子供の社会というものを、存分に味わわせるチャンスを色々な場で作っていくことが大事だなと考えています。この報告書のとらえ方については、私も大賛成です。

というのは、中世の段階では、大人・子供があまり区別されずに、子供は労働力として働かされていました。それに気付いた大人社会が、子供を保護しようということで、子供を隔離するわけですね。現代は、隔離し過ぎるほどですが。18歳まで高等学校でしょう。しかも、高校進学率が96%にもなっています。その三分の一は、22歳まで社会人にならなくていいんですよ。それこそ隔離されて豊かな生活をしています。

だから、中学生を含めて、三分の二の子供たちが大人になりたがらないのだそうです。なぜかという、あんな大人たちの大変な生活をするのはまっぴらだ、今の子供時代のほうがよっぽど楽しいという理由で拒否しているんですね。

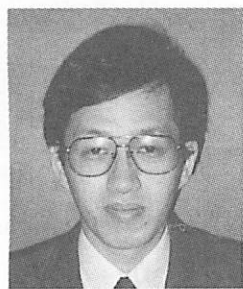
現代になって、ますます子供たちは現実から隔離されていく反面、一方では情報化が大人と子供の区別をなくしています。性情報をはじめ、お金さえ出せば、地域で酒でもたばこでもポルノ雑誌でも買えるわけです。極端に大人社会と子供社会

がボーダーレスになってしまっています。

性情報を含めて、情報から子供を隔離しないで、早い時期から与えるべきという考え方もありますが、私は、情報というものを有効に活用できる能力をもっている人にこそ、情報が自由に与えられるべきと思っています。それをうまく消化できない場合は、かえってマイナスになってしまう危険性がありますね。さっき言ったように、子供時代には子供時代を豊かに経験させていく、子供の社会は子供の社会としてしっかりと経験させていくことが大事だろうと思います。

結論的に言うと、子供らしさを確保できる条件を、あるいは育てる条件をどのようにつくっていくかが、家庭、学校、地域の課題になっていると思います。

河原木 学校現場の一員として、全く同感です。



小学生のうち、体を通して問題解決の能力を積み重ねていく必要があると思います。そうすることで、遊びや学習にも満足感や充実感を味わうことができるのではないかと

思います。そのような子供の情意的な面に訴える指導も一層大切にすることで、トータルとしての人間教育ができるものと思います。

「人間的センサー」の育成を

櫻井 雪江先生のお話に賛成です。知らないで済むことは知らないで済んで、その時代にしか覚えられないことや経験できないことのほうが大事で、私は、教育内容はあまり背伸びする必要はないと考えています。

感じる心を育てるのは、やはり家庭であり地域であり社会であると思うのです。感じる心のない方は寂しいですね。そういう意味で、ゆとりの中に豊かさを、貧しいければ貧しい中でのゆとりを感じる心を、子供たちに育ててほしいと願っているんですけど。

雪江 櫻井先生の言われた感じる心というのは、先ほど紹介した小此木先生は、「人間的センサー」という言葉で言っています。今の若い世代に形成されているセンサーは、あるところにはすごく敏感だけれど、あるところには誠に鈍感だというんですね。人間的センサーを作っていくには、心のヘルスマーターがないとだめなんです。各家庭には体重を測るヘルスマーターはあるが、子供の人間的なセンサーを形成するヘルスマーターを、用意していないのではないかと言っています。

「こういう時はこうだ」「これはいいことだ。これは悪いことだ」「お父さんは、ここに感動する」というような大人の働きかけで、子供たちのセンサーは形成されていくのだと思います。現在、このセンサーづくりは、一体どうなっているんでしょうね。どう感じるかという心のセンサーにかかわっての教育が大切だろうと思います。先生方は一生懸命やっておられるんですが、トータルな力として形成されていないと言えるのではないかと思います。

櫻井 このごろは、世の中全体が、評論家になり過ぎていませんか。例えば、子供が「こうこう、こういうことがあったんだよ」と先生に報告してきた時、先生が「うわっ、すばらしかったね。すごいね」とか「えっ、先生、驚いちゃった」という言葉を発して、子供の感じる心に共鳴することで、子供たちは喜ぶだろうと思います。それを、先生方も親の方も、評論家的に答えてしまうので、子供は、教師や親からくる言葉のある程度予測して発表したり話さなくてはいけなくなったりしているのではないかと思います。その結果、子供たちは無口になったり感動しなくなったりしないかと心配になります。この報告書にもまとめられています、もう少し豊かな大人をつくらなければならぬのではないのでしょうか。

阿部 子供が求める教師像についてなんですが、矯正施設等に入った子供たちは、優しく話を聞いてくれる反面、悪いことをしたら叱ってくれる先

生を求めていますね。

私は、ほめ方と叱り方ができれば、プロの教員になれると思っています。例えば、子供が非行を犯した時に、「大変だったなあ。よほどの事情があったんだろうね。先生は、お前のことは信頼しているよ」などと言葉をかけると、素直に話を聞いてくれる場合が多いようです。

櫻井 先生方は、普段努力されていると思いますが、先生方には、それなりの生活経験をたくさん積んだ、豊かな人間性が求められていると思います。まして、阿部先生が今おっしゃったように、ほめ方、叱り方などは、特に生活経験からにじみ出るものですから自信をもって子供に接してください。

大野 時間がまいりましたので、最後にお一人ずつ提言をお願いします。

子供の心の動きを正しくとらえる

河原木 現場の教師として、子供とともに教師も一緒に学ぶのだという姿勢を大切にしていきたいと思います。子供たちの感じ方の良い点を認めていくなかで、子供たちの知的な面や心の面を育てていきたいと考えています。

それから、研究員としてこの調査研究の当初には、子供たちの良いところを捜そうと考えていたのですが、今改めて子供に対する優しさが足りなかったなと反省しています。小学校の教員として、子供の側に立った優しさでもう一度調査結果を見つめたら、もう少し異なった形での報告もできたのではないかなと思っています。

相澤 現在の子供たちの良いところを肯定しながら、もっとふんわりとして包み込むような文章で報告書を書いていかないといけなかったかなあと感じています。

それから、情報化社会がますます進み、我々大人と子供との境がなくなってしまうので、その時にこそ、子供らしさというか、豊かな子供時代をいかにして我々教師なり地域社会なり家族なりが

つくっていただけるかを、今から真剣に考えていかなければならないと思います。

阿部 健康のところの歯磨きなんですけど、単にCMの影響だけではないと思うんです。むし歯予防の研究指定校などで努力されている先生方や子供たちもたくさんいると思います。そのような視点で分析することもあっていいと思います。

もう一点は、今もまだシルバーシートがありますね。また、盛んにボランティア活動の重要性が説かれていますね。このような言葉が言われなくなることが望ましいわけですよ。現在、社会福祉協議会で、ボランティア活動の協力校をたくさん指定していますよね。この活動などをクローズアップして取り上げたいものです。明成高校で、弁当をつくって施設を訪問したなどというテレビ報道がありましたが、マスコミに対しても、学校現場が良くなるように、先生方が楽しく子供の指導に当たれるような記事を載せていただく働きかけも大事ではないでしょうか。

それから、ボランティア活動の進んでいる国では、赤ちゃんの時から親の話す言葉が違ってくるんですね。「公共物を大切に」とか「集団のルールを守ろう」ということを徹底するようです。イギリスでは、5歳位の時から一人前に扱うんですね。日本でも、我々教師ももう一度、幼稚園の子供に、小・中学校の子供にどのような言葉をかけるのか、まあ、言葉のないほうが良い場合もあるのですが、そのへんを洗い直してみる必要があるのではないかと思います。

雪江 友達のところで、「お互いに自分の本音をぶつけ合ったり、本心をさらけだしたりするような付き合い方を求めてはいない」という記述とその後半に出てくる「信用できる人を求める」という記述は、一見矛盾しているように思えますね。しかし、このことを矛盾ととらえてはいけなと思います。矛盾としてではなく葛藤ととらえることが大切なんです。このような子供たちの心の動きを、この報告書からしっかり読み取るべきだと

思います。

阿部先生からボランティア活動の話がありましたが、日本的ボランティアは、すごく豊かにあったんですよ。良い、悪いは別にして。昭和35、6年ころまでは。いわゆる互助組織とか子供会活動なんかで、お互いに支え合っていく知恵とか仕組みが日本の社会には育ってきたんです。だから、ボランティアのことをだれも言わなくても、済んできた部分があるんですね。それが急速に豊かになっていく中で、すっかり形を変えてしまっています。

ふるさと教育の推進を

相澤 かつて、東六番丁小学校で、ふるさと教育の実践をしましたね。あの研究紀要を読んだんですが、地域の特色ということもあるだろうけれども、ものすごく地域の教育力があるんだなということを感じたんです。地域の特色を生かしたこのような実践を、一つか二つ継続していくことが大切ではないかと思います。そうすると地域との触れ合いを深めることができると思います。

教師は地域の実態に目を向け、学校あげて地域に密着した行事に取り組むことが大事だと思います。準備が大変なものは長く続きませんから、先生方が変わっても末長くやっていけるものを、今から取り組んでいく必要があるだろうなと思います。

大野 東六番丁小学校のふるさと教育の話が出



ましたが、実は、私もその研究に携わった者の一人です。私たちは、「ふるさとの自然・文化を大切にし、ふるさとの発展に尽くす子供」「地域社会の一員として、住みよいふ

るさとづくりに尽くす子供」「思いやりの心をもって人々と接することのできる子供」を育てることで、今日的な教育課題の解決を図ろうと実践に取り組んだわけです。

雪江 私は、ふるさと教育の新しい動きというものを、子供たちの教育の中に定着させていってほしいと思っています。その点で、東六番丁小学校でやっていた実践が大事だと思います。当時の太宰校長先生と話し合った時に、「昔、こんなものがあったんだよ」「昔の人はこんな生活をしていたのか。かわいそうだったね」で終わるのではなくて、そこにどういう人間の知恵とか技とかがあったのかや、それを踏まえて今の私たちの生活がどのように発展してきたのかなどという展開こそが、大事にされるべきだと思います。

咲かせるべき時に

大きな花を咲かせる意識を

雪江 今の社会は、とにかく前向きです。前向きは人間にとって不安なんです。逆に今までどうだったのかという過去をしっかりと見つめるということは自信につながってくところがあります。新しい創造の動きというものは、今までの歩みと今立つ基盤というものをしっかり学んでこそ、確かなものになると思っています。子供たちの成長の各時期に大事な花を咲かせないで、やがて咲く花のために、子供たちがどんどん押されているという感じがしているので、咲かせるべき時期に大きな花を咲かせてこそ、次の実がなるんだという考え方をもっと大切にしたいと思っています。

大野 本日はご多用のところ、貴重なお話をいただきまして本当にありがとうございました。



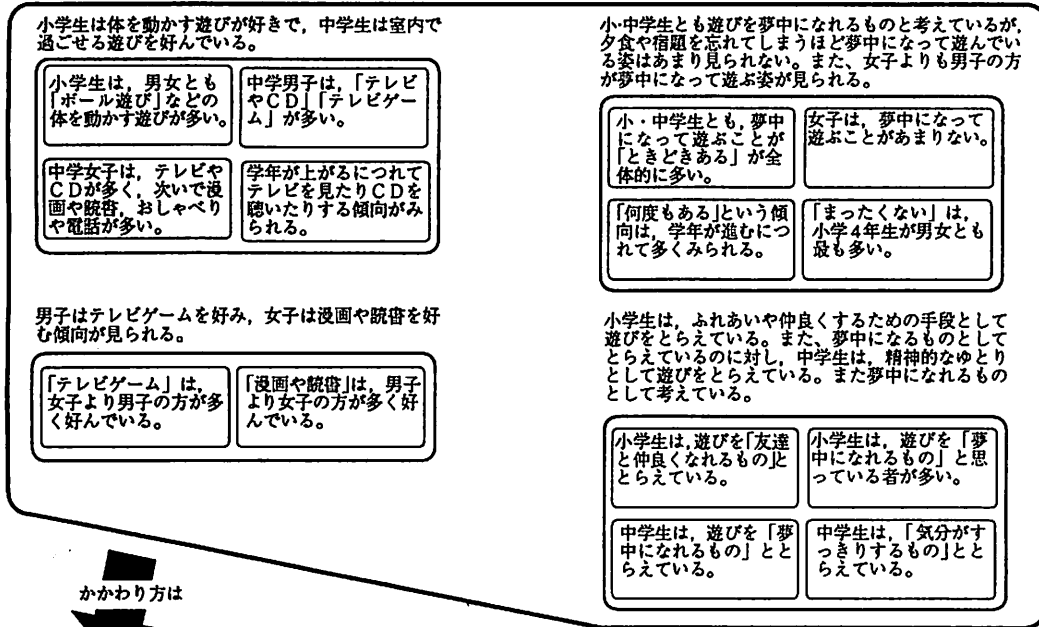
調 査 結 果 の 現 状 分 析

調 査 問 題 及 び デ ー タ ー 覧

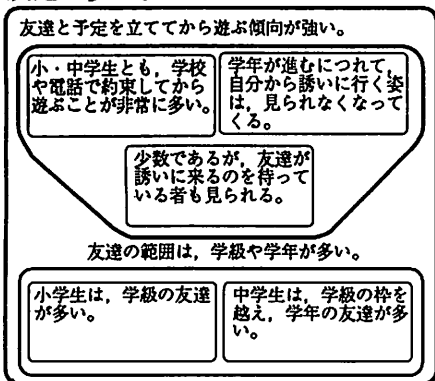
現状分析 遊び

作成日：1993.11.12
場 所：仙台市教育センター
情報源：小中学生の意識調査
作成者：委嘱研究員

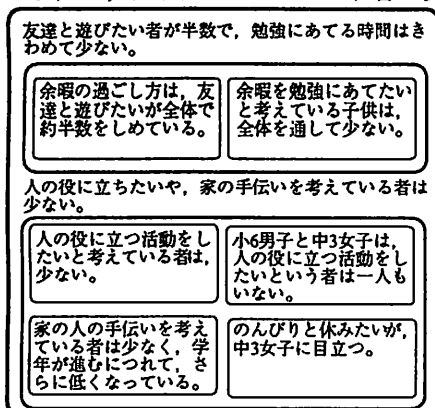
小学生は屋外で体を動かす遊びが好きで、中学生は室内で精神的なゆとりを遊びに求めている。



自主的・積極的に遊びに加わったり、また自由に誘ったりという姿はあまり見られない。交友範囲は小学生が学級の友達と、中学生は学年の友達が多い。

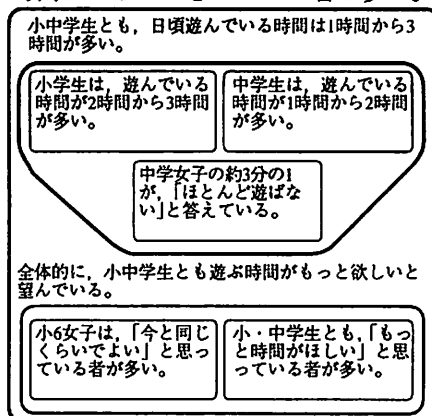


半日の時間を友達と過ごしたいと思っている者が全体の半数を占めており、奉仕活動や家の手伝い、勉強にあてるといふ者は少ない。

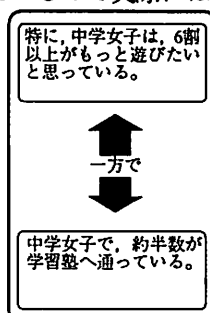


しかし、一方

小・中学生とも、遊んでいる時間は1時間から3時間であるが、もっと遊ぶ時間がほしいと思っている者が多い。



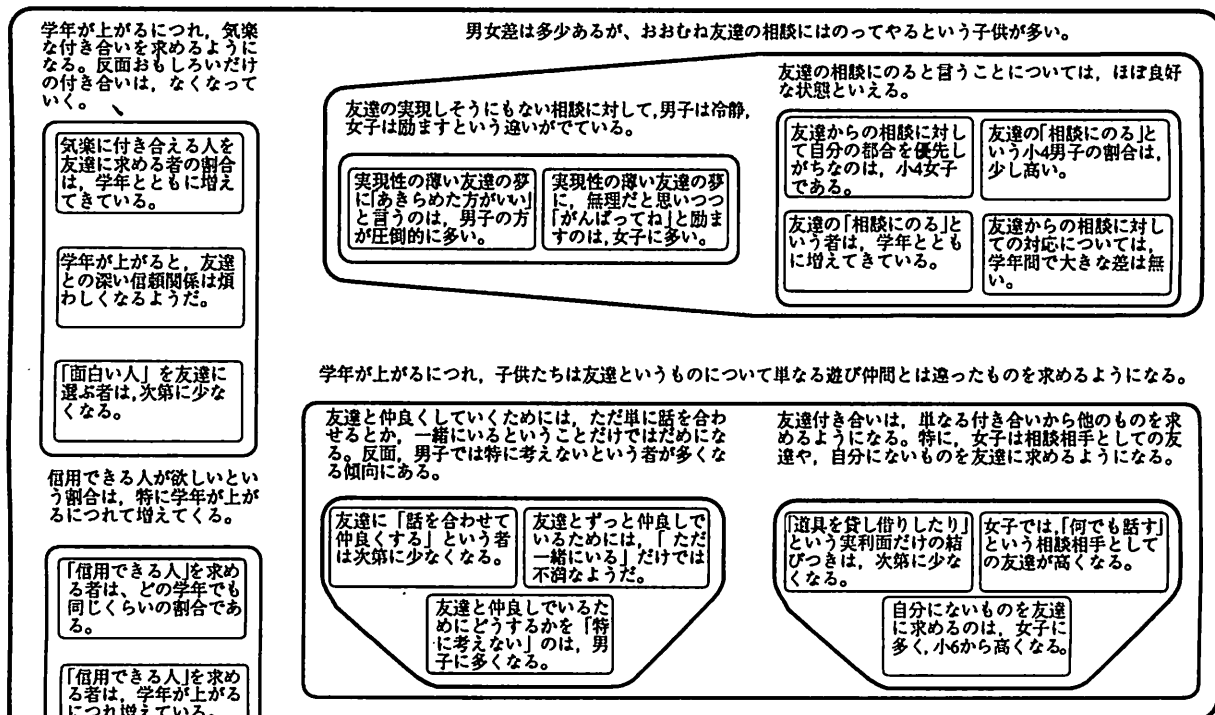
中3女子の6割がもっと遊びたいと思っている。しかし中3女子の半数が塾に通っているので実際には遊べない。



現状分析 友達

作成日：1993.11.12
場所：仙台市教育センター
情報源：小中学生の意識調査
作成者：委嘱研究員

学年が上がるにつれて精神的な友達関係を求めるようになるが、反面、深入りしないようにする傾向がある。



しかし一方では

自分の意見や人の意見について、自分は自分、人は人、というように、学年が上がるにつれて、積極的に他へかかわろうとする傾向が少なくなる。

友達の誘いに、自分は自分、他人は他人という見方をする傾向が強い。

友達の誘いがあっても、自分の考えで行動する者は増えてきている。

友達が誘っても、自分が飲みたくなければ飲まない者は増えてきている。

友達の誘いに対して、「やめよう」と説得する者は、次第に減少する。

人と意見が違っても反論したり、自分の意見を分かってもらおうとする努力したりすることは少なくなり、自分は自分、他人は他人という傾向が学年が上がるにつれて強くなる。

人と意見が違っても、「別に…」という無関心層は次第に増えている。

人と意見が違っても、自分の意見を分かってもらおう努力をする者は次第に少なくなる。

人と意見が違っても、自分の意見を分かってもらおう努力をする者は次第に少なくなる。

人と意見が違っても、自分の意見を分かってもらおう努力をする者は次第に少なくなる。

学年が上がるにつれ、人は人、自分は自分と考える者は多くなる。

学年ごとに少しずつ友達にどう思われているかという意識は高まるが、特に女子にその割合が多い。

友達からどう思われているか意識する者は、学年が上がるにつれて多くなる。

学年が上がるにつれて「どう思われるか気になる」割合は、かなり増えている。

友達からどう思われているかよく意識する者は、中3女子に多い。

男子は、小6になって「どう思われるか気になる」割合が増えてくる。

友達にどう思われるか気になるのは、女子の方が多。

だから

ダイエットの誘いにのるのは女子、特に中3女子が多いが、男子は特に興味をもっていない。

ダイエットには関心の高い中3女子も、流行の服装については「関係がない」が多い。

ダイエットの誘いに対し、男子の半数以上は「自分には必要ない」と思っている。

ダイエットの誘いに対し「進んでる」が最も多いのは、中3女子である。

ダイエットをしたがるのは、全体的に女子に多い。

ダイエットに誘われた時、「しない」と考えるのは、中3女子が著しく少ない。

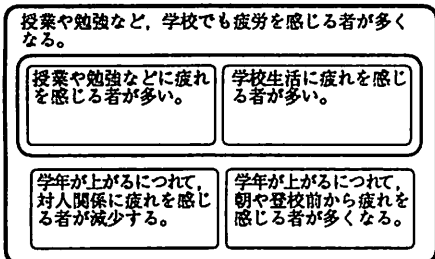
ダイエットの誘いに対する子供たちの割合は、やや高い。

ダイエットの誘いを「家の人と相談して決める」者は、学年とともに少なくなる。

現状分析 健康

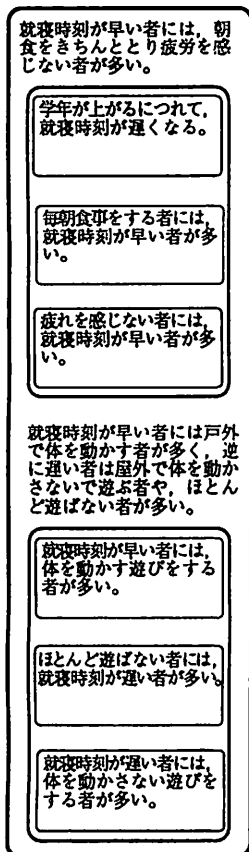
作成日：1993.11.12
場 所：仙台市教育センター
情報源：小中学生の意識調査
作成者：委嘱研究員

学年が上がるにつれて、登校前から疲労を感じ、学校でも疲労を感じる者が多くなる。ただし、対人関係で疲労を感じるという者は少なくなる。

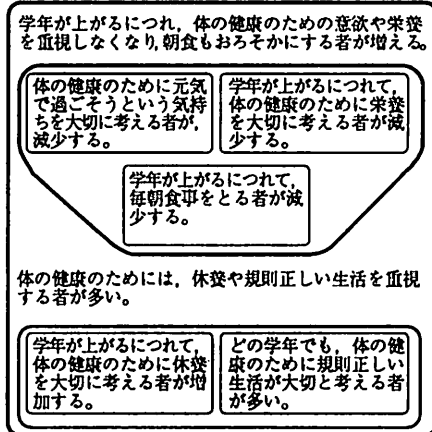


だから

子供の疲労は、就寝時刻や朝食、運動との関係が大きい。

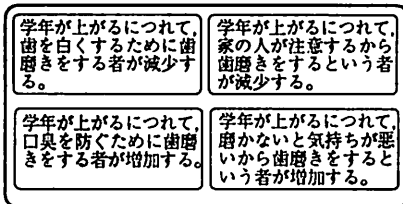


学年が上がるにつれて、体の健康のために休養や規則正しい生活を大切にする者が多くなる。

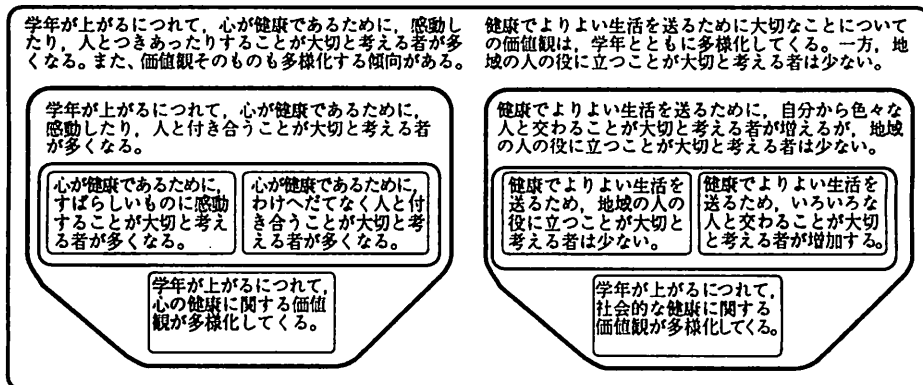


だから

学年が上がるにつれて、歯磨きは習慣として定着する。自分や他人への不快感を解消するために、歯磨きをする者が大部分となる。

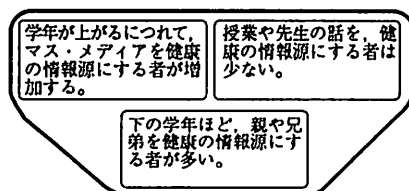


学年が上がるにつれて、社会的・精神的健康意識に対する価値観が多様化してくる。その中で人との交流を大切に考える者は多いが、地域の役に立つことが大切だと考える者は少ない。



だから

健康の情報源は、学校や家庭からマス・メディアに変わる。



現状分析 学習

作成日: 1993.11.12
場 所: 仙台市教育センター
情報源: 小中学生の意識調査
作成者: 安嶋研究員

テストの結果を気にしない者は少なく、クラスや友達という周囲との比較で評価する者が多い。

どの学年の子供も、テストの結果をクラスや友達という周囲との比較で行っている者が多い。

どの学年も、テストの結果をクラス全体や友達と比較したがる傾向が強い。

どの学年も、テストの点数の良し悪しを周囲との比較で行っている割合が高い。

テストの点数を気にしない子供は、どの学年でも、1割と少ない。

一方

学年が上がるにつれて、疑問をもったときの自力解決の姿勢は減退していく。

疑問をもったときの自力解決の姿勢は、学年が上がるにつれて減退していく。

疑問をもっても特に何もしないという子供は、学年が上がるにつれて増加している。

だから

学年が上がるにつれ、学習成績に対する自己評価は厳しくなり、不満が高まってくる。

学習成績に対する自己評価は、中学生になるにつれて低くなる傾向にある。

中学生のほぼ半数は、クラス中での学習成績はあまりよくないと感じている。

自分の学習成績に対する自己評価は、学年が上がるにつれて低くなっている。

自分の学習成績への満足度は小6を境に低下し、中学生では不満が増える。

学習成績への満足度が正から負に移行する学年は小6である。

今の学習成績に満足していない子供の割合が中3で急増している。

小学生は自分の今の成績に関してそれほど現実的な感じを抱いてはいない。

小学生は、将来、自分の役に立つからという理由で勉強している者の割合が多い。

小学生の6割は、クラス中での学習成績は普通だと感じている。

小学生は学習意欲が旺盛である。

小学生は、疑問をもったときの自力解決の意欲が旺盛である。

小学生は、グループ活動で友達の方まで頑張ろうとする意欲が高い。

中学生はグループ活動において自分の役割だけを果たそうとする者が多い。

グループ活動で、自分の役割だけを果たせばいいと考えている者が中学生に多い。

中学生は、グループ活動で友達の方まで頑張ろうとする意欲が低い。

それとともに

これに対して

一方

また

中3では成績を上げるための勉強だと自覚し、自分の目標に照らして、テストの結果を評価するようになる。

成績を上げたいという理由で勉強している子供の割合は、中学生に多い。

中3では、テストの点数を自分の目標に照らして見つめる姿勢ができてくる。

中学生は、自力解決の姿勢が減退する傾向にある。

中学生は、疑問を解決するときにすぐ他人に頼る傾向がみられる。

中3女子の2人に1人は、自分の疑問をまず他人に聞いて解決しようとしている。

中学生では自ら学ぶ内容や姿勢に現実と理想とのギャップが生じている。

だから

学年が上がるにつれ、自分の必要感から主体的に勉強する姿勢と時間が増えてくる。

塾を含めた家庭での学習時間は、学年が上がるにつれて増加し、中3では2時間以上が6割を超える。

塾を含めた家庭での学習時間は、学年が上がるにつれて長くなっている。

家庭での学習時間は、2時間以上している子供が中3で6割を超えている。

家庭での学習時間は、小学生は1時間以内が6割を占めている。

自ら勉強の必要性を感じ、主体的な理由で学習塾に通っている者が学年とともに増加する。

必要性に迫られて勉強している子供は学年が上がるにつれて増加する。

学習塾の必要性を感じている子供の割合は、学年が上がるにつれて増加する。

もっと勉強したいからという主体的な考えで塾に通っている子供が多い。

受験勉強
+
学習塾

友達との競争心は薄く、家の人から言われて勉強する子供が多い。

友達との競争心をもって、勉強している子供は少なく、家の人に言われて勉強する子供が多い。

友達に負けたくないという競争心から勉強している子供は少ない。

家の人に言われてしかたなく学習塾に通っている子供が多い。

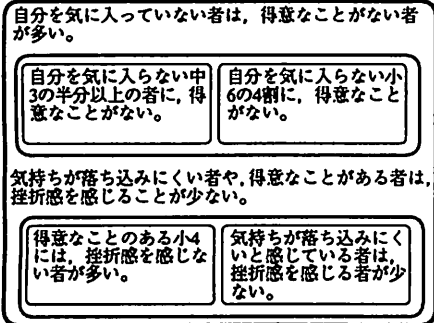
学習塾に通っている割合は、それほど多くない。

一方で

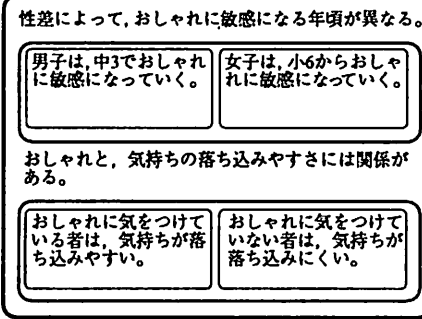
現状分析 自己像

作成日：1993.11.12
場 所：仙台市教育センター
情報源：小中学生の意識調査
作成者：委嘱研究員

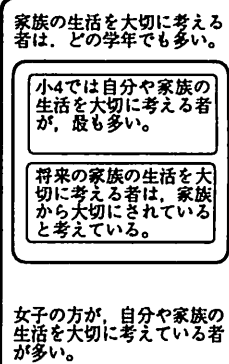
挫折感は、自分を気に入っているかいないか、得意なことがあるかないか、また、気持ちが落ち込みやすいか、そうでないか、ということと関係が深い。



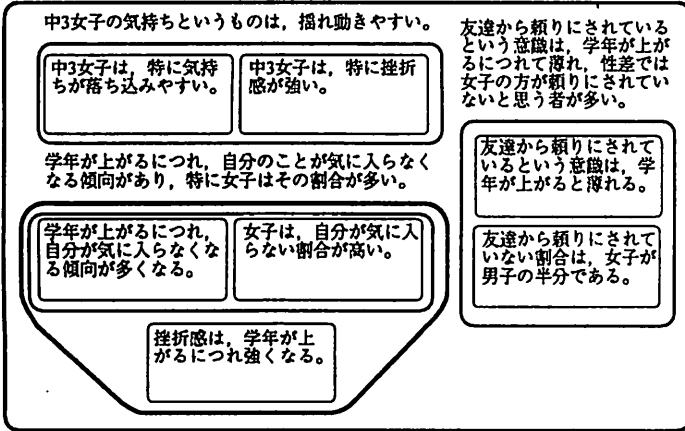
おしゃれに敏感になることと、落ち込みやすさには関係がある。



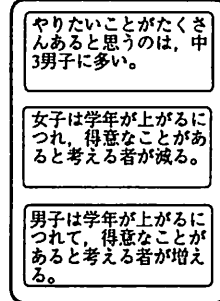
小学生や女子に、家族を大切にすることが多い。



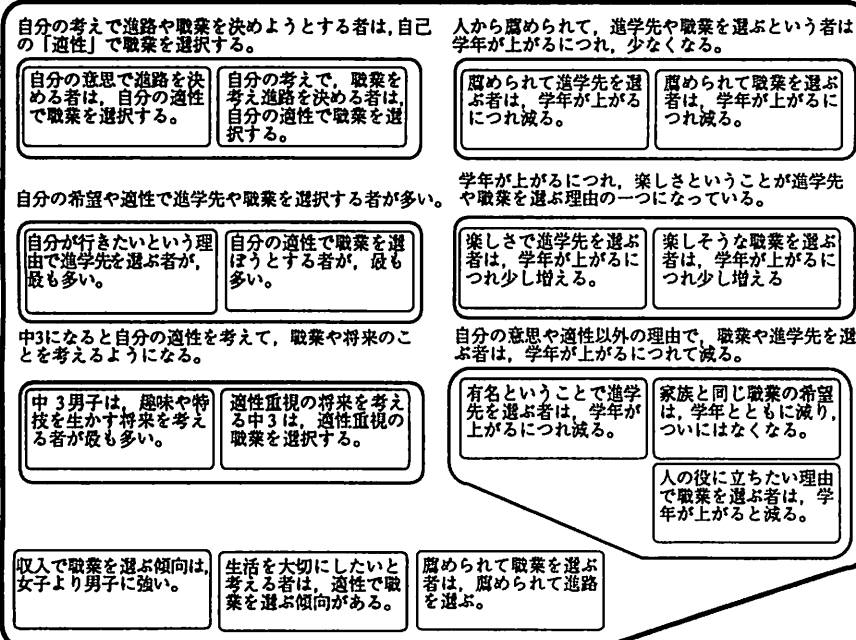
男子と比べると女子の方が、学年が上がるにつれ、精神的な不安定要素が多くなる。



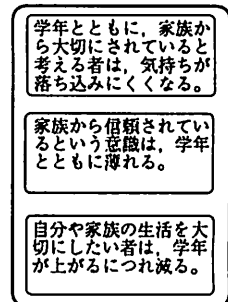
得意なことがあるなしは、学年が上がるにつれて性差が出てくる。また、中3男子では、やりたいことがたくさんあるという者が多い。



学年が上がるにつれ、自分の意思や適性を重視して進路や職業を考える者が多くなる。



家族とのつながりは、学年が上がるにつれて気持ちの上では薄れていると考える傾向にある。反面、家族とのつながりが精神的な安定につながっている。



調査問題及びデータ一覧

指定都市教育研究所連盟 小・中学生の意識調査

この調査は、12カ所の指定都市に住む子どもたちが生活の中で感じたり考えたりしていることを調べるものです。成績には関係がありませんし、一人一人のことを調べるものでもありません。あなたのありのままの気持ちや考えで答えて下さい。

【答え方】当てはまるものを一つだけ選んで、その番号を解答用紙に書いて下さい。ぴったりと当てはまる答えがないときには、いちばん近いものを選んで下さい。

領域	調査項目	質 問 ・ 選 択 肢	集 計 結 果 (単位 %)								
健康	就寝時間	1 あなたは、学校に行った日（月曜日から金曜日までは）夜何時ごろ寝ていますか。 1 午後 9 時より前 2 午後 9 時から 10 時までの間 3 午後 10 時から 11 時までの間 4 午後 11 時から 12 時までの間 5 午前 0 時から 1 時までの間 6 午前 1 時から 2 時までの間 7 午前 2 時よりあと	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			19.5	16.0	17.8	9.0	2.0	5.5	0.0	0.0	0.0
			59.0	67.5	63.2	46.0	35.0	40.5	3.5	1.0	2.3
			18.0	13.0	15.5	36.0	51.5	43.7	20.5	11.5	16.0
			3.5	3.5	3.5	7.0	10.5	8.8	41.5	53.5	47.6
			0.0	0.0	0.0	1.5	1.0	1.2	25.0	28.5	26.7
			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	5.0	6.0
			0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.3	2.5	0.5	1.5
学習	学習時間	2 あなたは、学校に行った日（月曜日から金曜日まで）家でどのくらい勉強していますか。〈学習塾も含む〉 1 30 分間くらい 2 1 時間くらい 3 2 時間くらい 4 3 時間くらい 5 4 時間以上 6 ほとんどしない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			28.5	32.5	30.5	21.5	18.5	20.0	9.5	10.0	9.8
			36.5	37.0	36.7	40.5	38.5	39.5	22.0	21.0	21.5
			16.5	13.0	14.8	19.0	27.5	23.3	33.5	38.5	36.0
			4.5	8.0	6.3	6.5	9.5	8.0	21.0	16.5	18.7
			1.5	3.5	2.5	3.0	1.5	2.2	6.5	5.5	6.0
			12.5	6.0	9.2	9.5	4.5	7.0	7.5	8.5	8.0
遊び	遊び時間	3 あなたは、学校に行った日（月曜日から金曜日まで）どのくらい遊びますか。 1 30 分間くらい 2 1 時間くらい 3 2 時間くらい 4 3 時間くらい 5 4 時間くらい 6 ほとんど遊ばない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			5.5	10.0	7.8	2.0	7.0	4.5	6.0	7.0	6.5
			11.5	20.5	16.0	16.5	25.0	20.8	20.5	18.0	19.3
			32.0	28.0	30.0	27.0	34.5	30.7	27.5	21.0	24.2
			32.0	24.5	28.2	30.5	13.5	22.0	20.0	17.0	18.5
			17.5	9.5	13.5	20.5	10.5	15.5	11.5	6.0	8.8
			1.5	7.5	4.5	3.5	9.5	6.5	14.5	31.0	22.7
健康	朝食	4 あなたは、毎朝、食事をしてから学校に行きますか。 1 はい 2 ときどき 3 いいえ	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			93.5	94.5	94.0	87.0	85.0	86.0	86.9	82.9	84.9
			6.0	5.0	5.5	10.5	12.5	11.5	10.6	13.6	12.1
			0.5	0.5	0.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3.5	3.0
自己 像	自己像	5 あなたの日ごろの生活について、家の人からよく言われていることは、次の中ではどれですか。 1 人と同じようにすること 2 てきぱきと早くすること 3 人に親切にすること 4 勉強をきちんとすること 5 友達となかよくすること 6 人にめいわくをかけないこと 7 あまり言われたい	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			0.0	0.5	0.3	0.5	0.5	0.5	1.5	1.0	1.2
			16.0	27.6	21.8	20.5	29.0	24.7	8.5	12.1	10.3
			6.5	9.0	7.8	3.0	4.5	3.7	5.0	5.0	5.0
			33.0	29.7	31.3	36.5	24.0	30.3	41.5	48.7	45.1
			10.0	7.0	8.5	3.5	4.5	4.0	1.0	1.5	1.3
			14.0	11.6	12.8	18.5	14.5	16.5	20.0	12.1	16.0
			20.5	14.6	17.5	17.5	23.0	20.3	22.5	19.6	21.1

領域	調査項目	質 問 ・ 選 択 肢	集 計 結 果 (単位 %)								
自己 像	自己像	6 あなたは、次のことについてどう思いますか	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
		①家族から大切にされている	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
		1 そう思う	55.3	58.0	56.7	47.5	53.0	50.3	38.5	39.0	38.8
		2 少し思う	27.1	26.5	26.8	39.0	30.5	34.7	38.0	40.5	39.2
		3 あまり思わない	15.1	11.0	13.0	11.5	14.0	12.7	17.5	16.0	16.7
		4 思わない	2.5	4.5	3.5	2.0	2.5	2.2	6.0	4.5	5.3
		②友達から頼りにされている	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
		1 そう思う	10.0	8.0	9.0	8.5	7.0	7.7	7.0	6.0	6.5
		2 少し思う	31.0	35.0	33.0	29.0	39.0	34.0	28.5	37.0	32.8
		3 あまり思わない	36.5	45.5	41.0	47.5	46.0	46.8	49.0	49.0	49.0
		4 思わない	22.5	11.5	17.0	15.0	8.0	11.5	15.5	8.0	11.7
		③本当の気持ちを話せる人がある	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
		1 そう思う	33.7	50.8	42.2	38.5	61.5	50.0	31.0	54.5	42.8
		2 少し思う	31.2	25.6	28.4	25.5	19.5	22.5	28.5	22.0	25.2
		3 あまり思わない	21.6	13.6	17.6	23.5	11.0	17.3	27.0	13.5	20.3
		4 思わない	13.5	10.0	11.8	12.5	8.0	10.2	13.5	10.0	11.7
		④体はじょうぶだ	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
		1 そう思う	55.6	52.5	54.0	50.0	51.5	50.8	46.0	54.0	50.0
		2 少し思う	26.8	29.0	27.9	28.0	33.5	30.7	36.5	23.5	30.0
		3 あまり思わない	7.5	12.0	9.8	17.0	12.5	14.8	13.5	16.0	14.8
		4 思わない	10.1	6.5	8.3	5.0	2.5	3.7	4.0	6.5	5.2
		⑤やりたいことがたくさんある	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
		1 そう思う	66.9	62.5	64.7	68.4	67.0	67.7	81.0	69.0	75.0
		2 少し思う	23.1	23.5	23.3	22.6	23.5	23.0	12.0	20.5	16.3
		3 あまり思わない	6.0	11.5	8.8	8.0	7.5	7.8	6.0	8.5	7.2
		4 思わない	4.0	2.5	3.2	1.0	2.0	1.5	1.0	2.0	1.5
		⑥人より上手にできることがある	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
		1 そう思う	40.7	41.2	41.0	42.5	32.0	37.3	43.5	30.0	36.7
		2 少し思う	33.2	33.7	33.4	31.0	37.0	34.0	27.5	28.5	28.0
		3 あまり思わない	20.6	18.6	19.6	18.5	22.5	20.5	20.5	31.0	25.8
		4 思わない	5.5	6.5	6.0	8.0	8.5	8.2	8.5	10.5	9.5
		⑦自分のことが気にいっている	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
		1 そう思う	22.1	22.6	22.3	13.5	6.0	9.7	10.0	7.5	8.8
		2 少し思う	29.7	31.7	30.7	24.5	28.5	26.5	24.0	17.0	20.5
		3 あまり思わない	27.6	29.1	28.4	41.5	38.5	40.0	39.5	36.0	37.7
		4 思わない	20.6	16.6	18.6	20.5	27.0	23.8	26.5	39.5	33.0
		⑧気持ちが落ちこみやすい	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
		1 そう思う	18.1	16.1	17.1	17.5	20.0	18.7	19.0	36.5	27.7
		2 少し思う	22.1	26.1	24.1	25.0	32.5	28.8	29.5	25.0	27.2
		3 あまり思わない	24.1	28.6	26.4	31.0	31.0	31.0	32.5	25.0	28.8
		4 思わない	35.7	29.2	32.4	26.5	16.5	21.5	19.0	13.5	16.3

領域	調査項目	質 問 ・ 選 択 肢	集 計 結 果 (単位 %)										
自己 像	自己像	⑨一度の失敗でやる気がなくなる	小学校4年			小学校6年			中学校3年				
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体		
			9.5	6.0	7.8	11.0	6.0	8.5	12.0	15.5	13.8		
			15.1	17.1	16.1	21.0	17.0	19.0	28.0	33.5	30.7		
			30.2	27.6	28.9	32.0	43.0	37.5	31.0	33.0	32.0		
					45.2	49.3	47.2	36.0	34.0	35.0	29.0	18.0	23.5
		⑩おしゃれには気をつけている	小学校4年			小学校6年			中学校3年				
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体		
			14.6	15.6	15.1	3.5	13.5	8.5	12.0	35.5	23.8		
			7.0	24.1	15.6	20.0	40.5	30.2	36.5	41.0	38.7		
27.6	33.2		30.4	37.5	30.5	34.0	33.0	18.5	25.8				
			50.8	27.1	38.9	39.0	15.5	27.3	18.5	5.0	11.7		
遊び	遊びの欲 求	7 あなたは、今よりもっと遊びたいですか。	小学校4年			小学校6年			中学校3年				
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体		
			68.0	53.0	60.5	59.5	46.5	53.0	59.3	61.5	60.4		
			28.5	44.0	36.3	37.0	49.5	43.3	37.7	35.0	36.3		
			3.0	2.0	2.5	3.0	2.5	2.7	2.5	1.5	2.0		
			0.5	1.0	0.7	0.5	1.5	1.0	0.5	2.0	1.3		
遊び	遊びの意 味	8 遊びは、あなたにとってどんなものだと思いますか。	小学校4年			小学校6年			中学校3年				
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体		
			24.1	18.5	21.3	32.7	19.6	26.1	31.0	25.0	28.0		
			2.0	1.5	1.8	0.0	0.5	0.3	0.5	0.0	0.2		
			8.5	3.5	6.0	10.6	6.0	8.3	11.5	8.0	9.8		
			11.6	5.5	8.5	10.0	5.0	7.5	12.0	10.5	11.3		
			44.8	55.0	49.9	34.7	53.3	44.0	17.5	19.5	18.5		
			6.0	14.0	10.0	10.6	13.6	12.1	24.0	32.0	28.0		
			3.0	2.0	2.5	1.4	2.0	1.7	3.5	5.0	4.2		
遊び	遊びの種 類	9 あなたが学校が終わってから遊ぶときには、次の中 ではどの遊びをすることが、いちばん多いですか。	小学校4年			小学校6年			中学校3年				
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体		
			13.1	18.1	15.6	11.0	22.7	16.8	10.6	21.5	16.0		
			7.0	9.0	8.0	8.0	4.5	6.3	3.5	0.5	2.0		
			44.8	35.2	40.0	32.5	20.2	26.4	13.0	2.5	7.8		
			4.0	6.0	5.0	2.0	5.6	3.8	5.5	6.5	6.0		
			4.0	10.1	7.0	11.0	25.8	18.3	38.8	48.0	43.4		
			1.0	8.5	4.8	0.0	3.0	1.5	0.0	2.5	1.3		
			25.1	10.1	17.6	35.5	6.6	21.1	26.1	1.0	13.5		
			1.0	3.0	2.0	0.0	11.6	5.8	2.5	17.5	10.0		
遊び	遊びのき っかけ	10 あなたは、家に帰ってから友達と遊ぶときに、いっ しょに遊ぶ人をどうやって見つけることが多いですか。	小学校4年			小学校6年			中学校3年				
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体		
			21.1	14.6	17.8	15.1	9.5	12.3	6.5	3.5	5.0		
			5.5	1.5	3.5	5.5	2.5	4.0	5.0	1.5	3.2		
			4.0	2.0	3.0	2.5	0.5	1.5	4.0	1.0	2.5		
			61.4	74.9	68.2	72.4	78.0	75.2	75.0	75.5	75.3		
			8.0	7.0	7.5	4.5	9.5	7.0	9.5	18.5	14.0		
遊び	遊びの対 象	11 あなたが遊ぶ友達はどうな人がいちばん多いで すか。	小学校4年			小学校6年			中学校3年				
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体		
			52.0	52.5	52.2	48.3	55.0	51.6	13.0	11.0	12.0		
			24.5	17.0	20.7	29.6	20.5	25.1	68.5	70.0	69.3		
			1.5	2.0	1.8	2.0	1.5	1.8	0.0	1.0	0.5		
			3.5	2.5	3.0	0.5	0.5	0.5	1.0	1.5	1.2		
			17.5	22.0	19.8	18.6	20.5	19.5	11.5	9.5	10.5		
			1.0	4.0	2.5	1.0	2.0	1.5	6.0	7.0	6.5		

領域	調査項目	質 問 ・ 選 択 肢	集 計 結 果 (単位 %)								
遊び	遊びの内 向性	1 2 あなたが、CDやラジオカセットで音楽を聞いたり テレビゲームで遊んだりしたくなるのはなぜですか。 1 みんながしているから 2 自分の自由にできるから 3 友達と遊ぶ時間が合わないから 4 ほかにすることがないから 5 おもしろいから 6 したいとは思わない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			5.0	4.0	4.5	1.0	1.5	1.2	1.5	0.5	1.0
			10.0	10.1	10.0	17.1	29.5	23.3	29.5	31.5	30.5
			8.0	3.5	5.8	4.5	4.0	4.3	3.0	0.5	1.8
			16.0	15.1	15.5	10.6	9.5	10.0	14.0	13.5	13.7
			50.5	39.2	44.9	60.8	43.0	51.9	48.5	51.0	49.8
遊び	没頭体験	1 3 あなたは、夕食や宿題を忘れてしまうほど夢中にな って遊んだことがありますか。 1 何度もある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			14.5	11.0	12.7	25.5	14.0	19.8	28.7	21.5	25.1
			36.0	32.0	34.0	37.5	29.5	33.5	35.7	32.0	33.8
			27.0	34.0	30.5	30.0	45.0	37.5	27.6	37.5	32.6
			22.5	23.0	22.8	7.0	11.5	9.2	8.0	9.0	8.5
遊び	遊びへの 要望	1 4 遊ぶことで、もっとこうなればいいと思うこと は何ですか。 1 もっと時間があればいい 2 もっと友達がいればいい 3 もっと遊び道具があればいい 4 もっと遊ぶ場所があればいい 5 今のままでいい 6 あまり遊ばないから分からない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			41.0	39.5	40.2	47.8	44.2	46.0	51.0	61.5	56.2
			13.0	19.0	16.0	7.5	6.5	7.0	6.0	2.0	4.0
			8.5	7.0	7.8	7.5	3.5	5.5	7.5	2.5	5.0
			20.0	16.0	18.0	26.1	30.7	28.4	19.0	18.5	18.8
			16.0	14.0	15.0	10.6	12.6	11.6	16.0	12.0	14.0
遊び	余暇の過 ごし方	1 5 あなたは、半日好きなことができるとすれば、次 の中では何をして過ごしたいですか。 1 友達との遊び 2 勉強 3 趣味や特技 4 人に役立つ活動 5 家の手伝い 6 のんびりと休むこと 7 思いついたこと	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			52.5	44.0	48.2	52.2	49.0	50.6	46.0	38.0	42.0
			3.0	5.5	4.3	3.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5
			11.0	8.0	9.5	16.1	13.0	14.5	15.0	9.0	12.0
			2.0	1.0	1.5	0.0	1.5	0.8	0.5	0.0	0.3
			4.5	10.0	7.2	2.0	3.0	2.5	0.0	1.5	0.7
友達	友達像	1 6 あなたは、どんな友達がほしいと思いますか。 1 自分とよく似ている人 2 自分にはないものをもっている人 3 おもしろい人 4 まじめでしっかりした人 5 気楽につき合える人 6 信用できる人	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			6.4	5.5	5.9	6.0	4.0	5.0	5.0	4.0	4.5
			9.0	3.5	6.3	4.0	10.0	7.0	9.0	9.0	9.0
			24.2	23.0	23.6	14.6	16.0	15.3	12.0	11.0	11.5
			2.5	5.0	3.8	1.5	1.5	1.5	1.0	0.5	0.7
			25.7	23.5	24.6	46.8	33.0	39.9	51.5	40.5	46.0
友達	友達と自 意識	1 7 あなたは、友達に「どう思われているかな」と、気 になることがありますか。 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			18.6	24.5	21.5	19.1	29.0	24.1	24.0	46.5	35.2
			25.6	40.5	33.1	42.2	50.5	46.3	41.0	44.0	42.5
			31.7	26.5	29.1	26.1	17.0	21.6	28.5	8.0	18.3
			24.1	8.5	16.3	12.6	3.5	8.0	6.5	1.5	4.0
友達	異なる意 見	1 8 学級会で、あなたとは違う意見の人がいるとき、 あなたは、どのように思いますか。 1 自分の意見を変えたくない 2 いろいろな意見があったほうがいい 3 自分の意見を説明して分かってもらう 4 意見の違いや似ている所を見つけない 5 別にどうでもよい	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			22.5	15.1	18.8	17.5	11.0	14.2	13.0	9.5	11.2
			30.5	45.2	37.8	32.0	45.5	38.8	36.0	46.5	41.3
			21.5	21.6	21.6	20.0	14.0	17.0	12.5	7.5	10.0
			5.5	6.5	6.0	10.5	14.5	12.5	8.0	12.0	10.0
			20.0	11.6	15.8	20.0	15.0	17.5	30.5	24.5	27.5

領域	調査項目	質 問 ・ 選 択 肢	集 計 結 果 (単位 %)								
友達	仲良しで いるには	19 友達とずっと仲よしでいるためには、どうすればいいと思いますか。 1 話を合わせる 2 同じ趣味をもつ 3 勉強を教え合う 4 本や遊び道具などを貸し借りする 5 できるだけいっしょにいる 6 どんなことでも話す 7 特に考えていない	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			15.5	16.6	16.0	17.5	10.0	13.7	16.1	7.5	11.8
			16.0	6.5	11.3	8.5	4.5	6.5	5.5	4.0	4.8
			3.0	4.5	3.8	3.5	2.0	2.7	0.5	0.0	0.3
			12.5	6.5	9.5	6.0	3.5	4.8	2.5	1.5	2.0
			25.5	23.2	24.3	15.0	18.5	16.8	7.5	7.5	7.5
			11.0	27.1	19.1	16.0	40.0	28.0	21.7	39.0	30.3
			16.5	15.6	16.0	33.5	21.5	27.5	46.2	40.5	43.3
友達	誘われたら	20 学校の帰り道で、友達に、「ジュースを買って飲もう」とさそわれたとき、あなたは、どうしますか。 1 友達の言うことを聞く 2 自分が飲みたければ飲む 3 「やめよう」と言ってことわる 4 買うのをやめさせる 5 どうしていいか分からない	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			4.0	2.5	3.3	3.5	2.0	2.7	7.5	2.5	5.0
			8.5	5.0	6.8	29.5	34.0	31.8	58.3	62.5	60.4
			41.8	37.5	39.6	38.0	31.5	34.7	19.1	22.5	20.8
			39.2	50.5	44.8	21.0	29.5	25.3	10.6	7.5	9.0
			6.5	4.5	5.5	8.0	3.0	5.5	4.5	5.0	4.8
			6.5	4.5	5.5	8.0	3.0	5.5	4.5	5.0	4.8
友達	誘われたら	21 友達に「かっこよくなるためにダイエットしようよ」とさそわれました。あなたならどうしますか。 1 かっこよくなりたいから進んでする 2 その友達がするのなら自分もする 3 周りの人たちもしていたら自分もする 4 家の人に相談してから決める 5 ちょっとつき合うがそのうちやめる 6 まねだけなら意味がないのでしない 7 自分には必要がないからしない	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			4.5	3.5	4.0	2.5	7.5	5.0	8.0	33.0	20.5
			5.0	7.0	6.0	7.5	14.0	10.7	3.0	6.0	4.5
			4.0	0.5	2.2	6.5	4.0	5.3	3.0	5.5	4.3
			18.0	26.5	22.3	12.0	20.5	16.3	1.5	3.5	2.5
			4.0	5.0	4.5	9.0	14.5	11.7	6.5	13.5	10.0
			7.0	7.5	7.2	9.0	10.5	9.8	9.5	12.5	11.0
			57.5	50.0	53.8	53.5	29.0	41.2	68.5	26.0	47.2
友達	流行	22 仲のよい友達が流行の服装やヘアースタイルをしたりアクセサリーを付けたりしていたら、どう思いますか。 1 うらやましいなあ 2 おなじことをしてみたいなあ 3 自分とは関係がないね 4 やめるように注意をしよう 5 くだらないなあ	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			4.5	15.0	9.8	5.5	9.5	7.5	9.0	24.6	16.8
			6.5	22.5	14.5	15.0	35.5	25.3	18.5	31.7	25.1
			24.0	29.0	26.5	45.0	36.0	40.5	50.5	36.7	43.6
			6.0	8.0	7.0	3.5	1.5	2.5	1.0	0.5	0.7
			59.0	25.5	42.2	31.0	17.5	24.2	21.0	6.5	13.8
			59.0	25.5	42.2	31.0	17.5	24.2	21.0	6.5	13.8
友達	相談にのる	23 あなたが、遊びにいこうとしたときに、仲のいい友達から相談されました。あなたならどうしますか。 1 遊びはあとにして、相談にのる 2 かんたんに聞いて、遊びに行く 3 相談をことわって、遊びに行く 4 いっしょに遊びに行こうとさそう 5 どうしていいか分からない	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			43.5	61.5	52.5	48.5	67.0	57.7	57.0	63.3	60.2
			17.0	8.5	12.7	19.0	10.0	14.5	13.5	10.6	12.0
			4.5	5.5	5.0	6.0	2.0	4.0	4.0	2.0	3.0
			28.0	19.5	23.8	20.5	17.5	19.0	18.5	21.1	19.8
			7.0	5.0	6.0	6.0	3.5	4.8	7.0	3.0	5.0
			7.0	5.0	6.0	6.0	3.5	4.8	7.0	3.0	5.0
友達	思いやり	24 仲のいい友達が、「大きくなったらアニメの作家になりたい」と、あなたに言ってきました。あなたには、友達は絵がそれほど上手だとは思えません。あなたは、何と言いますか。 1 あきらめたほうがいいよ 2 趣味ぐらいにしておいたら 3 しっかり頑張ってね 4 どうしていいか分からない	小学校4年			小学校6年			中学校3年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			12.5	5.5	9.0	7.5	3.0	5.3	15.7	4.5	10.1
			10.5	9.0	9.8	13.0	11.0	12.0	12.1	6.5	9.3
			71.5	81.0	76.2	72.5	80.0	76.2	65.6	83.0	74.3
			5.5	4.5	5.0	7.0	6.0	6.5	6.6	6.0	6.3
			5.5	4.5	5.0	7.0	6.0	6.5	6.6	6.0	6.3
			5.5	4.5	5.0	7.0	6.0	6.5	6.6	6.0	6.3

領域	調査項目	質 問 ・ 選 択 肢	集 計 結 果（単位 %）								
健康	健康意識 社会面	2 5 あなたは、健康でよりよい生活を送るためには、次の中では何がいちばん大切だと思いますか。 1 自分の役割をはたす 2 みんなと協力する 3 地域の人の役に立つ 4 ルールを守る 5 いろいろな人と交わる 6 人にやさしくする	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			16.5	11.0	13.7	13.5	11.5	12.5	17.2	15.0	16.1
			29.5	33.5	31.5	38.0	42.0	40.0	20.2	21.5	20.8
			4.5	7.0	5.8	3.5	5.0	4.3	3.5	0.0	1.8
			17.0	17.0	17.0	20.0	10.5	15.2	20.2	19.5	19.8
			7.0	3.5	5.3	5.5	6.5	6.0	17.2	15.0	16.1
			25.5	28.0	26.7	19.5	24.5	22.0	21.7	29.0	25.4
健康	健康意識 身体面	2 6 あなたは、体が健康であるためには、次の中では何がいちばん大切だと思いますか。 1 つかれが残らないように休養をとる 2 栄養がかたよらない食事をとる 3 規則正しい生活を送る 4 自分に合った適度な運動をする 5 元気で過ごそうという気持ちをもつ 6 気候の変化に服装などを合わせる	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			17.1	9.0	13.1	22.0	20.5	21.3	37.5	24.0	30.7
			20.1	19.6	19.8	15.0	11.5	13.3	6.0	6.5	6.2
			19.6	35.7	27.6	25.5	38.5	32.0	33.5	47.0	40.3
			15.1	10.1	12.6	18.5	12.0	15.2	17.0	11.0	14.0
			23.6	23.1	23.4	11.5	16.0	13.7	5.0	10.5	7.8
			4.5	2.5	3.5	7.5	1.5	4.5	1.0	1.0	1.0
健康	健康意識 精神面	2 7 あなたは、心が健康であるためには、次の中では何がいちばん大切だと思いますか。 1 おこらないで、おだやかにしている 2 周りの人に感謝の気持ちをもつ 3 自分を高めようと努力する 4 人にたよらず、自分で決める 5 すばらしいものに、感動する 6 わけへだてなく、人とつき合う	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			29.0	25.0	27.0	30.0	20.0	25.0	28.5	16.5	22.5
			16.0	23.5	19.7	18.5	23.0	20.8	11.5	17.5	14.5
			15.5	11.5	13.5	15.0	8.0	11.5	24.5	17.0	20.8
			23.5	26.5	25.0	25.0	34.5	29.7	15.0	14.0	14.5
			5.5	8.5	7.0	5.0	6.0	5.5	9.5	19.0	14.2
			10.5	5.0	7.8	6.5	8.5	7.5	11.0	16.0	13.5
健康	情報源	2 8 あなたは、健康についての知識を何から知ることが多いですか。 1 新聞や雑誌 2 健康のことを書いた本 3 テレビやラジオの番組 4 友達 5 学校の勉強や先生の話 6 両親やきょうだい	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			11.1	8.5	9.8	8.5	10.5	9.5	15.5	22.5	19.0
			9.0	7.5	8.3	2.0	6.5	4.3	5.0	1.5	3.2
			22.1	13.5	17.8	33.5	28.5	31.0	39.0	37.0	38.0
			14.1	9.0	11.5	7.0	9.0	8.0	13.0	8.5	10.8
			18.1	18.5	18.3	16.0	10.5	13.2	10.0	7.0	8.5
			25.6	43.0	34.3	33.0	35.0	34.0	17.5	23.5	20.5
健康	歯磨きの 理由	2 9 あなたが歯みがきをするのは、むし歯を予防するためのほかに、どんな理由がありますか。 1 口からにおいがしないように 2 家の人が注意するから 3 歯を白くしたいから 4 みがかないと気持ちが悪いから 5 理由はないが毎日しているから 6 ほとんどしないので分からない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			18.0	8.5	13.3	15.5	19.5	17.5	26.0	21.5	23.7
			11.5	8.0	9.8	8.5	5.5	7.0	2.0	0.0	1.0
			25.5	24.0	24.7	21.0	10.0	15.5	7.5	8.5	8.0
			22.0	41.0	31.5	28.5	46.0	37.3	43.5	56.0	49.8
			20.5	18.5	19.5	25.0	18.0	21.5	19.0	12.5	15.7
			2.5	0.0	1.2	1.5	1.0	1.2	2.0	1.5	1.8
健康	疲労感	3 0 あなたは、どんなときに「つかれたなあ」と感じますか。いちばん近いものはどれですか。 1 朝起きたときや学校へ行くとき 2 友達に合わせて話や行動をしたとき 3 初めて会った人と話や行動をしたとき 4 友達とけんかをしたり分かってくれなかったとき 5 勉強が思ったほどうまくいかなかったとき 6 一日の授業が終わったとき 7 あまりつかれを感じたことはない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			18.7	9.0	13.8	20.5	10.0	15.2	25.5	22.0	23.7
			4.5	7.0	5.7	3.5	9.5	6.5	3.5	8.5	6.0
			5.6	10.5	8.0	8.5	9.5	9.0	5.5	5.0	5.3
			12.6	9.5	11.1	7.0	14.0	10.5	4.0	7.0	5.5
			7.6	18.5	13.1	15.5	10.5	13.0	12.5	14.5	13.5
			30.3	30.0	30.2	36.0	38.0	37.0	44.5	41.5	43.0
			20.7	15.5	18.1	9.0	8.5	8.8	4.5	1.5	3.0

領域	調査項目	質 問 ・ 選 択 肢	集 計 結 果 (単位 %)								
健康	美的感覚	3 1 あなたが、「美しい」と感じるのは、次の中ではどれですか。 1 有名な絵 2 赤ちゃんの笑顔 3 思いやりのある行い 4 合唱（コーラス） 5 日本の古い建築物 6 夕焼け	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			22.6	14.0	18.3	11.5	14.0	12.7	10.7	5.5	8.1
			12.1	9.5	10.8	7.0	7.5	7.2	6.1	2.0	4.0
			9.5	10.5	10.0	18.0	20.5	19.3	14.8	13.0	13.9
			9.5	18.0	13.8	10.5	11.5	11.0	12.2	13.5	12.9
			10.1	2.5	6.3	10.5	1.5	6.0	8.7	2.0	5.3
			36.2	45.5	40.8	42.5	45.0	43.8	47.5	64.0	55.8
学習	学習意欲	3 2 「ほたるは、なぜ光るのか」という疑問をもちましたあなたならどうしますか。 1 まず、だれかに教えてもらう 2 調べてみて分からないときは教えてもらう 3 調べてみて分からないときはあきらめる 4 特に何もしない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			10.5	11.5	11.0	18.5	28.5	23.5	31.5	52.5	42.0
			68.0	80.0	74.0	56.5	59.5	58.0	34.5	31.0	32.7
			4.5	2.0	3.3	7.0	2.5	4.8	2.5	1.5	2.0
			17.0	6.5	11.7	18.0	9.5	13.7	31.5	15.0	23.3
			小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
学習	学習意欲	3 3 グループの新聞を作るために記事を集めることになりました。でも、みんなはあまり集めません。あなたならどうしますか。 1 自分でたくさんの記事を集める 2 自分が書く記事の分だけ集める 3 みんなと同じにあまり記事を集めない 4 自分では記事を集めない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			53.5	70.5	62.0	52.3	67.0	59.6	34.8	41.5	38.2
			23.5	19.0	21.2	33.2	29.0	31.1	37.4	45.5	41.5
			13.0	9.5	11.3	6.5	3.5	5.0	14.1	7.5	10.8
			10.0	1.0	5.5	8.0	0.5	4.3	13.5	5.5	9.5
			小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
学習	学習への意識	3 4 あなたが、勉強をしている理由にいちばん近いのはどれですか。 1 周りのみんながしているから 2 勉強がすきだから 3 友達に負けたくないから 4 成績を上げたいから 5 やらなければいけないから 6 将来、自分の役に立つから	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			3.5	0.5	2.0	2.5	2.0	2.2	1.5	3.0	2.2
			2.0	6.5	4.3	3.0	4.5	3.8	2.0	1.0	1.5
			11.5	10.0	10.7	10.0	13.0	11.5	4.5	6.0	5.3
			29.0	24.0	26.5	25.5	21.5	23.5	30.0	32.0	31.0
			15.0	7.0	11.0	15.5	16.5	16.0	24.0	35.0	29.5
			39.0	52.0	45.5	43.5	42.5	43.0	38.0	23.0	30.5
学習	学習成績への意識	3 5 あなたの学習成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。 1 まあよいほうだと思う 2 ふつうだと思う 3 あまりよくないほうだと思う	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			20.0	15.0	17.5	18.5	8.5	13.5	22.2	11.0	16.6
			57.5	61.5	59.5	56.0	57.8	56.9	34.9	42.5	38.7
			22.5	23.5	23.0	25.5	33.7	29.6	42.9	46.5	44.7
			小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			20.6	16.5	18.5	9.5	6.0	7.8	3.0	1.5	2.3
学習	学習成績への意識	3 6 あなたは、今の学習成績に満足していますか。 1 満足している 2 だいたい満足している 3 あまり満足していない 4 満足していない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			38.2	48.5	43.4	37.5	34.0	35.7	14.1	9.5	11.8
			26.1	24.5	25.3	36.5	43.0	39.7	27.3	27.5	27.4
			15.1	10.5	12.8	16.5	17.0	16.8	55.6	61.5	58.5
			小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			12.5	7.0	9.8	11.0	4.5	7.8	8.0	11.5	9.8
学習	学習成績への意識	3 7 あなたが、テストの点数でいちばん気になることは何ですか。 1 クラス（学年）の最高点 2 クラス（学年）の最低点 3 クラス（学年）の平均点より上か下か 4 友達の点数より上か下か 5 目標にしていた点より上か下か 6 点数は気にならない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			10.0	12.0	11.0	6.0	7.0	6.5	2.0	2.5	2.2
			16.5	18.0	17.2	22.0	25.5	23.8	15.5	27.0	21.2
			11.5	13.0	12.3	17.5	20.5	19.0	19.5	20.0	19.8
			37.0	41.0	39.0	29.5	33.0	31.2	49.5	34.5	42.0
			12.5	9.0	10.7	14.0	9.5	11.7	5.5	4.5	5.0

領域	調査項目	質 問 ・ 選 択 肢	集 計 結 果（単位 %）								
学習	学力向上 に対する 意識	3 8 あなたが、学習塾へ行っているのはなぜですか。 1 友達が行っているので 2 家の人に言われたから 3 一人でやるより楽だから 4 もっと勉強したいから 5 学習塾には行っていない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	3.8	5.5	3.5	4.5
			8.5	6.0	7.3	15.6	12.6	14.1	17.6	12.5	15.0
			7.5	8.5	8.0	11.1	10.6	10.8	14.6	15.0	14.8
			8.6	10.0	9.3	13.6	16.0	14.8	17.6	19.5	18.6
			71.9	72.0	71.9	56.2	56.8	56.5	44.7	49.5	47.1
自己 像	進路選択 の拠り所	3 9 あなたが、高校や大学などを選ぶとき、どんなことを考えて選ぶと思いますか。 1 近いところにあるから 2 楽しそうだから 3 親や先生がすすめるから 4 友達が行くから 5 自分が行きたいから 6 名前が知られているから 7 いい仕事につけそうだから 8 高校や大学などには行かない	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			11.5	5.5	8.5	6.0	3.0	4.5	5.0	5.5	5.3
			8.5	8.0	8.2	8.5	10.1	9.3	12.5	12.6	12.5
			7.0	11.0	9.0	10.0	6.0	8.0	2.0	3.0	2.5
			11.0	9.0	10.0	4.0	8.0	6.0	3.5	2.0	2.8
			27.0	44.0	35.5	40.5	58.3	49.4	55.5	59.8	57.6
			3.5	2.0	2.8	3.5	2.5	3.0	2.5	0.5	1.5
			26.5	16.5	21.5	25.5	11.1	18.3	18.0	15.6	16.8
自己 像	職業選択 の拠り所	4 0 あなたは、将来、仕事を選ぶとき、どんなことを考えて選ぶと思いますか。 1 家の人がしているから 2 楽しそうだから 3 親や先生がすすめるから 4 カッコいい仕事だから 5 自分にむいているから 6 人の役に立つから 7 収入が多いから	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			7.5	4.0	5.8	2.0	0.5	1.2	0.0	0.0	0.0
			10.1	13.0	11.5	6.5	13.0	9.8	10.6	14.0	12.3
			1.5	2.0	1.8	1.5	0.5	1.0	0.5	1.0	0.8
			5.5	3.0	4.3	5.0	6.0	5.5	2.5	4.5	3.5
			40.2	41.0	40.6	49.5	55.5	52.5	61.3	57.5	59.4
			19.1	29.0	24.0	15.5	16.5	16.0	9.5	11.5	10.5
			16.1	8.0	12.0	20.0	8.0	14.0	15.6	11.5	13.5
自己 像	将来の自 己像	4 1 あなたは、将来、どのような人になりたいですか。 次の中でいちばん近いのはどれですか。 1 有名な人 2 お金をたくさんもうける人 3 自分や家族の生活を大切にする人 4 人のためにつくす人 5 趣味や特技を生かす人 6 みんなをひっぱっていく人	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 3 年		
			男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
			16.0	7.1	11.5	9.5	3.5	6.5	8.0	7.5	7.7
			15.5	4.0	9.8	13.5	6.0	9.8	14.6	11.0	12.8
			34.5	51.5	43.0	35.0	40.7	37.8	27.6	32.5	30.1
			9.5	17.2	13.3	12.5	20.6	16.5	13.6	17.0	15.3
			22.0	16.2	19.1	28.0	27.2	27.6	31.7	28.5	30.1
			2.5	4.0	3.3	1.5	2.0	1.8	4.5	3.5	4.0

参 考 文 献

- 川喜田二郎著 『発想法』 中公新書 1967
- 川喜田二郎著 『続・発想法』 中公新書 1970
- 政令指定都市教育研究所連盟第10次共同研究資料 1994

委嘱研究員

仙台市立第一中学校教諭	相 澤 成 信
仙台市立若林小学校教諭	河 原 木 美 智 也
仙台市立長町南小学校教諭	橋 本 光 一
仙台市立原町小学校教諭	渡 部 晋
仙台市立上杉山通小学校教諭	中 辻 正 樹
仙台市立台原小学校教諭	阿 部 淳

担 当

仙台市教育センター	指導主事	大 野 榮 夫
〃	指導主事	今 野 英 二

教育研究紀要

『教育は いま』 第1－1号

子 供 た ち は 今
－ 仙台市の子供の生活意識を探る －

発 行 日 平成6年3月31日

編集・発行 仙台市教育センター
所長 大 宮 貞 昭

所 在 地 〒983 仙台市宮城野区鶴ヶ谷北1－19－1
TEL (022) 251－7441～3
FAX (022) 251－7486